

●沿革要領

五百五十四

明治三年四月廿四日布告ヲ以テ種痘施行方ヲ府縣ニ令ス○四年十月文部省布達ヲ以テ大學東校ニ於テ種痘免狀并  
痘苗分取手續ヲ定ム○七年十月文部省第二十七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定ム○八年四月第四十九號布達ヲ以テ種痘流  
行ノ節貧困ノ者救助概則ヲ定ム○九年四月内務省甲第八號布達ヲ以テ七年文部省第二十七號布達種痘規則ヲ廢シ更  
ニ種痘規則ヲ定ム○九年五月内務省甲第十六號布達ヲ以テ天然痘預防規則ヲ定ム○十二年六月第廿三號布告ヲ以  
テ虎列刺病預防規則ヲ定ム○同年八月第三十二號布告ヲ以テ前令ヲ更正ス○十三年七月第三十四號布告ヲ以テ前  
令ヲ廢シ更ニ傳染病預防規則ヲ定ム○十四年四月第三十號布達ヲ以テ八年第四十九號布達種痘規則ヲ廢シ流行病ノ節貧民救濟ニ  
係ル費用ハ地方稅衛生費ヲ以テ支辨セシム○十六年二月第八號布達ヲ以テ前令ヲ改正シ傳染病ニ罹リ身元赤貧ニシテ  
資力ナキ者ハ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨セシム○十八年十一月第三十四號布告ヲ以テ種痘規則ヲ制定シ九  
年内務省甲第八號及甲第十六號布達ヲ廢ス

○檢疫停船規則 十二年七月 大政官布告第二十九號

明治十二年(七月)第二十八號布告海港虎列刺病傳染預防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則  
ト改稱候條此旨布告候事

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカマメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行ス  
ルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ニヘ  
キ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員

ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差  
支ナキヲ以テ足レリトスヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)  
都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ル  
ヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施  
行スヘキ且場所并ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備タル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ之ヲ停  
止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫  
士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ離ニテモ檢疫官吏ノ訊問ニ對シ都テ之ニ應答  
シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ(十二年七月  
本條改正)

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受ケヘシ但シ給ハ航海中船客又ハ  
乗組人ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルトキハ其検査  
ヲ受ケヘシ

檢疫官吏ハ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得  
得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手

第四類 第四章 檢疫停船

五百五十五



續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直  
チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船舶内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ  
検査官吏ヲ満足セシムルモ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及醫官ニテ  
調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス  
入港スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サハルトキハ検査停船規則ニ從フヘシ(同上  
ヲ以テ本條  
ニ追加ス)

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル  
港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内  
ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期  
滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方検査局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルトモ差支ナキヲ認ム  
ルモ此限ニアラス

右七日ノ期該船來著ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルモ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ  
許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ検査官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或  
ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他検査官吏ニ於テ特ニ危険ナリト見込ムモ  
ノハ消毒法ヲ行フヘシ  
消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ

定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルモ其船及ヒ人員  
物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港  
前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシト無ク又ハ病感染ノ恐ナク且  
航海中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシト無キ旨ヲ明告スルモ直ニ入港スルコトヲ得  
ヘシ右ノ書面ヲ差出サハルトモ該艦ハ検査停船規則ニ從ハシムヘシ(十二年七月第三十號布  
告ヲ以テ本條ニ追加)  
第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルモ検査官吏ニ  
テ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシム  
ヘシ(十二年七月第三十號  
布告ヲ以テ本條改正)

船舶來港前病消毒減シ而シテ検査官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地  
方検査局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ消毒法施行後停船中眞性虎列刺病  
若クハ疑似症ヲ發スル者アルモ地方検査局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其  
施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルモ  
最初定メタル時限ニ違スル迄停船セシムヘシ  
患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來著スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エザレハ其容體ニ  
依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ済マサルモ其爲メニ設ケタル場  
所ニ於テ之ヲ處置スルコトヲ得ヘシ



所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ  
患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ  
消毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施メヘシ而シテ消  
毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ  
設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クル  
カ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ  
受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ著港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得ヘシ而シテ  
政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ(十二年七月第三十號  
布告ヲ以テ本條改正)

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ  
病院或ハ碇泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法  
ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコ  
トヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス  
第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人

ヲ船中ニ停メ置テ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケテ  
ル避病ノ場所ニ移サル、コアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來著スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ原因ナラン  
ト思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルトハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其  
病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラ  
ズ而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ  
(十二年七月第三十號  
布告ヲ以テ本條改正)

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケ  
アル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ  
行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ

又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處  
置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アル時ハ他船ニテ到着シタ  
ル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來著後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來著後十二時間ヲ過キテ檢  
査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アル  
カ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノ時ハ此限ニアラ  
ズ其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタル時検査ヲ爲スヘシ



第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シテ其入費ハ船主又ハ其實アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ  
然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ(十二年七月第三十號 布告ヲ以テ本條改正)

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來著スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ(上同)

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危険ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルルハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコト得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用途ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クコトヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用途又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムルハ毎犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ  
但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船主)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 十五年六月二十三日 布告第三十一號

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸立積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸立積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊  
第四類 第四章 檢疫停船  
五百六十一



セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得(十八年第六十九號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ 地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ  
右奉 勅旨布告候事

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續十六年六月十四日

昨十五年大政官第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行之義務者ヨリ相違候節内外國船舶トモ検査之義ハ左之手續ニ據リ可取扱此旨相違候事  
虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

一 船舶入港スルルハ検査官少クモ二名連ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルルハ英語通辯者一名ヲ伴ヒ且検査官タルノ證書 甲號證書式ニ據ルヘシ但検査官 各一葉ヲ帶有スヘキモノトス)ヲ船長ニ示シタル後 虎列刺病流行地方ヨリ來ルルヤ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ニ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スヘシ若シ必要ト認ムルルハ自ラ船内ヲ巡檢スヘシ

一 船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキヲ信認スルルハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康ヲ證明スル證面ヲ出サシメ)直チニ規則第二條ニ據リ許可ノ證 乙號證書式ニ據ルヘシ其患者若クハ死屍アルルハ規則第三條ニ據リ之ヲ處置シ先ツ乗組人船客ノ上陸ヲ許可スルノ證 丙號證書式前段ヲ船長ニ與ヘ次ニ船舶積荷ノ消毒法全ク終リタル上ハ本條末項ニ據リ進航交通等ヲ許可スルノ證 丙號證書式後段ヲ船長ニ與フヘシ

但内海ノ諸港ヲ往復スル内國小蒸氣船及ヒ日本形小船等ノ如キハ別ニ簡易ノ検査手續ヲ設ケ之レニ與フル證書ハ必シモ乙號丙號ノ證書式ニ據ラス簡易ノ證書式ヲ用フルモ善シカラス

一 内外國軍艦モ亦検査ノ手續ヲ爲スヘシト雖船長及醫官ニ於テ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキヲ證明スルルハ其證明書ヲ要求スルニ止メ其患者若クハ死屍アルルハ船長及醫官ト協議ヲ遂ケ規則ニ準據シテ相當ノ處置ヲ爲スヘシ規則第二條及第三條許可ノ證ハ共ニ交付スルニ及ハス

一 十五年第三十一號布告ノ全文ヲ英文ニ譯シ附寫若クハ印刷シ置キ検査官外國船ニ到ルトキハ之ヲ携ヘ行キ其證書ニ一部宛交付スヘシ

甲號證書式 寸法 縦 大約六寸餘幅  
大約八寸餘用紙適宜

表面

(其)港ニ到着スル船舶ノ船長ニ示ス

(其)府知事 (其)又ハ監視總監タル余ハ内務卿ノ命ニヨリ明治十五年六月二十三日附第三十一號布告虎列刺病流行地

第四類 第四章 検査停船



方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ施行セシカ爲メ(何基)ニ命スルニ検査官タルノ任ヲ以テス既官ハ(其)港ニ到著スル諸船舶ノ虎列刺病流行地方ヨリ來リタルヤ否其航海中ニ於テ虎列刺病患者若クハ死屍アラサルヤ否ヲ船長ニ尋問シ且其船内諸人ノ健康ヲ證明スル證書ヲ船長ニ要求シ必要ト認ムルトキハ船内ヲ巡檢スルノ權ヲ有スルモノナリ

大日本帝國

(其)府知事 又ハ(警視廳區)位勳氏名印

裏面

表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

し號證書式 寸法大約甲號ニ同シ用紙適宜

裏面

(其)港ニ到著セシ風帆船(其)號ノ船長ニ交付ス

風帆船(其)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ルルヲ以テ(其)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三拾壹號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者及其死屍ナキヲ信認スルヲ以テ該規則第二條ニ據リ直チニ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ降揚ヲ爲スヲ許可スルモノナリ

大日本帝國(其)府下

(其)港 検査官 氏 名 印

同 氏 名 印

裏面

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

丙號證書式 寸法用紙トモシ同クスヘシ

裏面

(其)港ニ到著セシ風帆船(其)號ノ船長ニ交付ス

風帆船(其)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ルルヲ以テ(其)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三拾壹號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者若クハ死屍無キ(ア)リタルヲ以テ該規則第三條第一項第二項ニ據リ之ヲ成置シ乗組人船客ニ消毒法ヲ施行シ其上陸ヲ許可スルモノナリ(船)積荷ニ消毒法ヲ施シタル後與フヘキ證書ハ該規則以下「該規則第三條ニ據リ悉ク之ヲ成置シ總テ消毒法ヲ施行シ」リ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ降揚スルヲ許可スルモノナリ」ニ作ルヘシ

大日本帝國(其)府下

(其)港 検査官 氏 名 印

同 氏 名 印

裏面

外國船ニ與フルモノハ表面ノ全文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ

○夜間検査信號 二十一年九月 内務省告示第十一號

夜間検査信號左ノ通相定ム但舊間検査信號ハ其國検査信號ニ依ル

夜間検査信號

一 検査船前燈(船首燈)位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高さニ於ルニ於テ赤色球燈ニ箇各三尺ヲ距テ縱ニ連揚シ検査船ノ信號トス

一 船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス

一 検査船碇泊ノ時ハ船首燈凡ソ各一箇ノ從燈ヲ掲ク

○虎列刺病流行ノ際検査所設置取計方 十三年三月十六日 内務省達第七第九號(東京警視水番)府縣

虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ検査所ヲ設ケ行旅船客ヲ扣留候儀ハ經伺之上可取計儀ト心得此旨相達候事

第四章 第四章 検査停船



○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襪履輸送ヲ禁ス十八年九月十四日 内務省達甲第三十一號 警視廳府縣 五百六十六

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪履ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

●沿革要領

明治十二年七月廿八號布告ヲ以テ海港虎列刺病傳染豫防規則ヲ定ム○同年第廿九號布告ヲ以テ前令ヲ更正シ檢  
疫傳染規則ト改稱ス○十五年六月第三十一號布告ヲ以テ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ制定ス

○獸類傳染病豫防規則

十九年九月十五日 農商務省令第十一號

獸類傳染病豫防規則左之通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス  
但明治九年二内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ  
日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮膚
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鵝口瘡
- 六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患

畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警

察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之

ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三八人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手

評價金二十五圓マテ	手當金評價十分ノ四
評價金五十圓マテ	同 十分ノ三
評價金百圓マテ	同 十分ノ二
評價金二百五十圓マテ	同 十分ノ一
評價金五百圓マテ	同 十五分ノ一
評價金千圓マテ	同 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツ  
ヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第四類 第四章 獸類傳染病



第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戸長役場ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ

但埋没シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條 傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第二條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戸長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳府縣廳ニ届出ツヘシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内及近接ノ地方廳ニ報告スヘシ(二十二年農商務省令第六號ヲ以テ改正)

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ報告スヘシ

第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得(同)

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタルトキハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ金額ヲ下付スヘシ(同)

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○人家稠密ノ場所ニ於テ豢養ヲ禁ス

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラ

第四類 第四章 獸類傳染病



ス近來歐類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ糞糞ノ穢堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ二十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退糞糞可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ糞糞不相成候尤乳汁搾取ノタメ糞糞候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ穢モ有之候ヘハ詮議ノ上可令取拂事

○糞糞制限掛酌方 七年一月九日 大藏省達第三號

昨明治六年第百六十三號ヲ以テ公布相成候者專人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地ニテ糞糞候ヲ制限候者ニ候條山村僻處等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

●沿革要領

明治九年二月内務省ノ第二十號達ヲ以テ疫牛處分假規則ヲ定ム○同年三月同省ノ第二十四號ヲ以テ傳染牛疫豫防法並暨死處置方法ヲ定ム○十九年九月農商務省令第十一號ヲ以テ獸類傳染病豫防規則ヲ定ム九年内務省ノ第二十號達其他獸類傳染病ニ關スル從前ノ達類ヲ廢ス

第五章 墓地埋葬 行旅死亡

○墓地及埋葬取締規則 十七年十月四日 太政官布達第二十五號

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得

ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ

火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラ

ス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ

建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

第四類 第五章 墓地埋葬



但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出  
ヘシ

右布達候事

○墓地及埋葬規則ニ違背スル者處分方 十七年十月四日  
太政官達第八拾貳號警視廳府縣

令般第五拾五號ヲ以テ墓地及埋葬規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違背罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達  
候事

○墓地及埋葬規則細則標準 十七年十一月十八日  
内務省達乙第四拾號警視廳府縣

本年第五拾五號布達第八條ニ記載セル方法細則ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但コトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ  
地ヲ擇ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ  
得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍地ト下ノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塙垣ヲ存スヘカラサルモノ  
トス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ汚穢ヲ有トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民稠密ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ擇ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ具相ヲ  
防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塙垣ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 廣穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ雖キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナ  
リトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勲賞法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ踏踏傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標  
ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘ  
シ

第十二條 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルルハ醫師ノ檢案ヲ提出シ區長又ハ  
戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ

第十三條 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産証ヲ提出シ區長又ハ戶長ノ認許証ヲ乞フヘシ

第十四條 死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ提出スヘシ

第十五條 凶徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ同職官ノ檢印ヲ乞ヒテ提出スヘシ

第十六條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニテアサレハ埋火葬ノ認許証ヲ與フヘカラス

第十七條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ  
第四類 第五章 墓地埋葬



戸長役場へ提出スヘシ

第拾四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓誌ヲ製シ置クヘシ

第拾五條 (此標準ニ據リ雖キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ) (十九年二月内務省達第百一號ヲ以テ本條ヲ削除ス)

○狹ニ墓地ヲ設クルヲ禁ス 六年十月二十三日 太政官達第三百一十五號(使)府縣

從來狹ニ墓地ヲ設ケ候儀ハ不相成候處今般私有地ノ證券相渡候上ハ心得遊ノ者モ雖計ニ付耕地宅地ハ勿論林畷タリモ許可ヲ得スシテ新ニ墓地ヲ設ケ成ハ區域ヲ取崩ケ候儀可令禁止就テハ忽墓地ヲ支候郷村モ可有之候條管下一般諸寺院境内ヲ始其他永久墓地ニ定ムヘキ場所取崩圖面ヲ制(大藏省)可伺出此旨相達候事

但即今墓地ヲ支候場所ハ相當ノ處分致シ原本支ノ通至急取崩可申尤管下總體一時取崩出來候儀ハ、差向墓地ヲ支候郷村ヨリ取崩リ逐次同省へ可伺出

○古墳ト見ユル地ハ狹ニ發掘ヲ禁ス 七年五月二日 太政官達第五拾九號府縣

上世以來御覽ノ所在未定ノ分即今取崩中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見(候地ハ狹ニ發掘爲我間敷候者差向聖廟ノ地ニ有之分ハ繪圖面相副教部省へ可伺出此旨相達候事

○醫師患者死亡届 九年二月五日 内務省達第十三號各縣

管内醫師施治ノ患者死亡スル時ハ左ノ書式ニ準シ遺漏ナク區戸長ヲ經テ管廳へ爲届出半ケ年宛取繼メ八月ヲ限リ管省へ可届出此旨相達候事 (十六年七月廿八號ヲ以テ同書式ハ管省へ差出スニ不及旨ヲ達ス又戸長ノ下(若クハ) (醫務取崩)トアレバ(醫務取崩)ハ十二年七月五十六號省達ニ依リ消滅ニ付除去ス) 死亡届 料紙半紙 ニツ折

何縣何區何町(九年七月百三十九號) 何縣何區何町(九年七月百三十九號) 何某父某兄弟等子

病名 年號月日死

何縣何區 姓名

年齡

右ハ私施治ノ患者ニ候處死去候間此段御届申上候也

年號月日

何縣何區 姓名

何縣何區何小區何町番地 醫師 姓名

醫師 姓名

○患者死亡届差出順序 九年四月一日 内務省達第十四號各縣

管省本年七月十三號ヲ以テ患者死亡届ノ備相達候處若届書差出方順序醫師ヨリ直チニ差出候テハ救醫ノ施療ヲ受ケタル患者死亡ノ節醫師各自届出直報シ成ハ互ニ職リ合等間相成候儀モ可生ニ付主任ノ醫師ハ必ラス届書ヲ死者ノ家人ニ付與スヘク家人ハ必ス之レヲ請求シテ該病家ヨリ(區戸長)ニ爲差出候條可取計此旨更ニ相達候事 (同上) (戸長)ノ下(成) (ヲ除)

○死亡届書ニ職業記載方 二十年十月二十七日 内務省達第百二十四號府縣

本年二月七月十三號達(三府)ハ同月八日相達候(死亡届)備往々書式ニ照準セス職業ヲ記載セサル書面有之元來死亡届ハ土地ト職業ニ原ツケル疾病ニ異同多少アルヲ查出シ豫防法講究ノ用ニ供候條向後例(ハ大工)ハ大工鍛冶ハ鍛冶其他總テ本人ノ職業ヲ記載スヘク此旨更ニ相達候事

但例(ハ大工)ノ家族モ他業ヲ管居者ハ本人ノ職業ヲ記載シ若シ本人無業ナレハ無業ト記シ候儀ト可相心得事

●沿革要領

明治五年六月第百九十二號布告ヲ以テ自葬祭ヲ禁シ葬儀ハ神官僧侶ノ内へ可頼旨ヲ令ス○同月第百九十三號ヲ以テ自今氏子等神葬祭儀ノ節要旨ヲ助ケ諸事可取扱旨神官へ布告ス○同年八月大藏省第百五十八號布告ヲ以テ人民所

第四類 第五章 墓地埋葬



持ノ耕地畔際等へ遺體ヲ埋葬スルヲ禁ス○六年七月第二十五十三號布告ヲ以テ火葬ヲ禁ス○同年十月第三百五十五號遂ヲ以テ耕地宅地ハ勿論林藪タリ正許可ヲ得スニテ新ニ葬地ヲ設ケ區域ヲ取廣グルヲ禁セシム○七年一月第三號布告ヲ以テ自今教團職ノ職へ雜儀ヲ依頼スルコトヲ許ス○八年五月第八十九號布告ヲ以テ六年第二十五十三號火葬禁止ノ布告ヲ廢ス○同年六月內務省シ第八十號ヲ以テ燒場取扱心得ヲ達シ遊骨ヲ場中ニ埋葬スルヲ禁ス○十四年十月內務省シ第四十八號遂ヲ以テ教團教會所設教所ニ於テ雜儀ノ執行ヲ禁ス○十五年一月內務省シ第四號ヲ以テ自今神道教團職其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ雜儀ヲ執行スル爲メ祠宇建設出願方ヲ達ス○同月內務省シ第七號遂ヲ以テ神宮教團職雜補ヲ廢シ雜儀ニ關係セサルモノトシ府縣社以下ハ當分從前ノ通トス○十七年十月第二十五號布告ヲ以テ墓地及埋葬取團規則ヲ定ム○同年十月第八十二號遂ヲ以テ規則違背者處分方ヲ示ス○同年十一月內務省シ第四十號ヲ以テ本年第二十五號布告第八條ニ記セル方法細目ノ標置ヲ達ス

○行旅死亡人取扱規則 十五年九月三十日 布告第四十九號

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

- 第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戶長ハ之ヲ最寄墓地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ
- 第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戶長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戶長へ通報スヘシ本籍戶長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋葬地戶長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

- 第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戶長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄場示場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルトキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
- 第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ  
但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルヲ能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ
- 第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘瀛アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間(戶長)役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

●沿革要領

明治四年六月十七日布告ヲ以テ行旅ノ遺體氣ノ簡取扱方規則ヲ定ム○十一年十二月第五十五號遂ヲ以テ前令第二條中地方官廳ヲ戶長役場ト改ム○十五年第四十九號布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則ヲ制定ス○同月第五十號布告ヲ以テ四年六月十七日布告行旅病人取扱規則ヲ廢ス



第五類

第一章 衛生 醫藥

○地方衛生會規則

二十年四月二十三日  
閣令第十號

改正  
見合

地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年<sup>十二</sup>太政官第五拾五號達地方衛生會規則明治十三年<sup>四</sup>太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設ケルコト左ノ如シ

會長

府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員

府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長



府縣廳所在地ノ郡長又ハ區長  
府縣會常置委員

醫師 壹人  
獸醫 三人乃至五人  
化學家 壹人  
臨時委員 壹人

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ開會當日出席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中東京府京都府大阪府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當並ニ旅費ヲ給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

●沿革要領

明治十二年十二月第五十五號達ヲ以テ地方衛生會規則ヲ定ム○十三年第六十二號達ヲ以テ前令第二條ニ但書ヲ追加

ス○同年四月番外達ヲ以テ東京地方衛生會規則ヲ定ム○二十年四月閣令第十號ヲ以テ更ニ地方衛生會規則ヲ定ム  
○醫師免許規則 十六年十月二十三日 布告第三十五號

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊) 醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス  
但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツ  
ハシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者

第五類 第一章 衛生



- ト雖其履歴ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
  - 第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ
  - 第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ
  - 第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ
  - 第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ
  - 第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ
  - 第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ  
但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ
  - 第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ
  - 第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ
- 醫術開業試驗委員組織權限 二十二年五月六日勅令第六十二號

朕醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十二號

醫術開業試驗委員組織權限

- 第一條 醫術開業試驗委員ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス
- 第二條 醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

官内省待醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

其他醫師齒科醫及理化學家

書記 内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

- 第三條 試驗委員長及試驗委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ

委員長事故アルトキハ内務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五條 第一章 衛生



第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ

第六條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第七條 書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○醫師開業試驗規則 十六年十月二十三日  
大政官布達第三十四號

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通り相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

(別冊)

醫術開業試驗規則

第一條 醫師ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受ケヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 (二十二年五月九日内務省令第七號ヲ以テ別除)

第四條 (上全)

第五條 醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分テ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 前期試験科目
- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 解剖學
- 第四 生理學
- 後期試験科目
- 第一 外科學
- 第二 內科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖及生理
- 第二 齒科病理及治療
- 第三 齒科用藥品
- 第四 齒科用器械
- 第五 實地試驗

第八條 前期試験ハ一ヶ年半以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス (十七年第二號布達ヲ以テ但書追加)

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ提出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ送達スルモノトス

但履歷書ニハ其簡若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫學ニ關シ犯罪者クハ不正ノ行為アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サルハコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験委員長試驗委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ (二十二年五月九日内務省令第七號)

第五類 第一章 衛生

五百八十五

追加見合



省令第七號ヲ以テ  
本條中ヲ改正ス  
但時正ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

改正  
見合

削除  
見合

第十三條 試驗ニ接シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試驗ヲ請フコトヲ得ス  
第十四條 醫術開業試驗ヲ受ケル者ハ試驗開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ  
前期試驗手数料 金三圓  
後期試驗手数料 金五圓  
齒科試驗手数料 金五圓

第十五條 受檢中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試驗ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セズ  
○試驗ヲ要セムシテ醫師ノ免狀ヲ授與スヘキ者格例 十六年十一月十七日 內務省達シ第四十六號府縣

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試驗ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當者ノ  
特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其規則則及教員履歷書生徒員數  
其他學校ニ關スル一切ノ書類取覽メ豫メ當省ヘ稟請スヘシ此旨相違候事  
但明治十五年大政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟請ニ及ハス

改正  
見合

- 一 三名以上ノ醫學士 醫米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等
  - 一 生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ
  - 一 四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試驗法ノ完備スルモノ
  - 一 生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ
  - 一 器械圖書ノ具備スルモノ
- 醫師開業受檢人心得 十六年十二月十日 內務省告示甲第百二十六號

令般大政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試驗規則布達相成候ニ付右受檢人心得左之通相定候條此旨告示候事  
受檢人心得

改正  
見合

醫術開業試驗規則

第一條 醫術開業試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受ケルコトヲ得ヘシ  
第二條 醫術開業試驗ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方  
廳ヘ提出スヘシ

第三條 前條許可ノ指合ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試驗舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツ  
ヘシ  
第四條 試驗手数料ハ試驗舉行ノ前日迄ニ醫術開業試驗場ヘ相納ムヘシ  
第五條 試驗場ノ取極上ニ都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ  
第六條 試驗中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得ス (十七年十二月内甲第三十五號告示ヲ以テ全條ヲ改正ス)

住所 寄附ナレハ本籍  
ヲ併記スヘシ

族籍

氏 名

年 月 日

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期)齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字  
ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク 試驗相受度別紙書類相添此段奉願候也

第五類 第一章 衛生

五百八十七



內務部宛

○從來開業ノ醫師ハ試験ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス 十年八月十六日

昨明治九年當省ノ第五號ヲ以テ醫師試驗ノ條相繼從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ其條相立候處難新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫藥若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須重ニ免狀可交付候條左ノ關係ニ照觀シ本人ノ願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規ノ試驗ヲ遂ケ候條下可相心得事

一 內務省醫務院醫員及ヒ補醫視察員

一 陸軍省軍醫及軍醫試驗以上

一 海軍省軍醫以上

一 文部省及都大學東校少得業生及ヒ醫學官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員 皇國醫道館直轄諸學校及補給ハ之ヲ除ク

一 司法省及補給正醫員

一 官內省六等特醫以上及補少典醫補少特醫以上

一 開拓使病院醫員

一 府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○從前府縣ニ於テ下付ノ醫術開業ノ證ヲ所持スル者更ニ免狀附與 內務省達甲第二十一日(文部省達甲第二十一日) 從前府縣ニ於テ下付シタル醫術開業證許可ノ證ヲ所持スル者ハ今改更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候事

○引取人ナキ刑死者及囚徒ノ遺骸解剖方 十八年七月二十一日(文部省達甲第二十一日) 監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ解剖遺骸其遺骸ノ下付ヲ關フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事

但屍體解剖ノ後ハ總理シテ原體ニ復シ不都合無之候取射ハシムヘシ

○入齒齒抜口中療治接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方 十八年三月二十三日 內務省達甲第七號府縣

入齒齒抜口中療治接骨等營業ノ者ハ明治十六年十月第三拾四號布達ニ照リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業ハ此際各地方廳ニ於テ證札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業者取締方 十八年三月二十五日 內務省達甲第九號府縣

鍼灸術營業者之條ハ從來開業ノ者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ證許不苦其取締方之條ハ便宜相設可申此旨相達候事

●沿革要領

明治四年十月文部省布達ヲ以テ大學學校ニ種痘局ヲ置キ種痘醫ニ免許狀ヲ與ヘ並苗苗分與方ヲ定ム○五年九月文部省第二十九號達ヲ以テ東校ノ免許ヲ得タル種痘醫ヨリ授術セラレタル者ハ其管轄限リ施術ヲ免許セシム○七年十月文部省第二十七號布達ヲ以テ種痘規則ヲ定メ施行免狀ヲ附與ス○九年一月內務省第七號達ヲ以テ醫師試驗法ヲ定メ新ニ開業スル者ハ府縣ニ於テ試驗ノ上免狀ヲ授與セシム○同年四月內務省第八號布達ヲ以テ文部省制定ノ種痘規則ヲ廢シ更ニ種痘規則ヲ定ム○十年八月內務省第七十六號達ヲ以テ種痘以來官廳及地方公立病院ニ醫術ヲ以テ奉職從事セシ者ハ試驗ヲ須ス免狀ヲ渡サシム○十二年二月內務省第三號布達ヲ以テ九年第七號達中醫師試驗



驗科目等ノ規則ヲ定メ該規則ニ依ルセリ指合等ヲ廢止ス○十五年二月第四號布告ヲ以テ自今文部省ノ認可ヲ得タル  
醫學校卒業生ハ試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付ス○同年三月內務省第七十四號達ヲ以テ從來開業醫ノ子弟ニレテ助手  
ト成リ醫業ヲ以テ家名相續ノ者ニ限リ試驗ヲ要セス開業許可ノ證ヲ付與スルヲ許ス○同年四月內務省第七十六號  
達ヲ以テ前令開業醫ノ子弟ニ開業許可ノ證ヲ付與スルハ本年八月十號限トシ右期限後ハ一切之ヲ許サス○同年八月  
第三十九號布告ヲ以テ醫師開業ニ關シ犯罪者トハ不正ノ行為アルトキハ其業ヲ停止シ又ハ之ヲ禁ス○同年十月第  
三十五號布告ヲ以テ醫師開業規則ヲ制定シ十五年第四號布告同年第三十九號布告ヲ廢ス○同月第三十四號布告ヲ以  
テ醫師開業試驗規則ヲ定メ十二年內務省第三號布告ヲ廢ス

賣藥規則 十年一月二十日

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ精スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ  
附シ販賣スルモノヲ云フ(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正)  
第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳  
ニ願出免許證札ヲ受ケヘシ(十一年第二十七號布告ヲ以テ管轄廳ノ下八字ヲ削リ)  
但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許證札ヲ受ケヘ  
シ(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ加フ)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラズ版披上失誤ヲ  
生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サハルヘシ(十一年第二十七號布告ヲ  
以テ改メ(檢査)ノ下(調製)ノ二字ヲ加フ)

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ屆  
出書證札ヲ返納シテ更ニ新證札ヲ願受ケヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ  
營業者所持ノ免許證札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許證  
札ヲ受ケヘシ(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第二十七號布告  
ヲ以テ(管轄廳)ノ下十三字ヲ削リ(ケ)ノ一字ヲ加フ)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲ケヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント  
欲スルモノハ其由ヲ管轄廳ヘ屆出行商證札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スベシ

第八條 營業證札請賣證札行商證札ハ其證札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此  
期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊證札ヲ返納シ更ニ新證札ヲ願受ケヘシ(十九年  
第二百五號令第七十二號ヲ  
以テ(營業免許期限)ヲ廢ス)

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新證札記載ノ  
月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲グル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營

第五類 第一章 賣藥



業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ  
(十一年第二十七號布告ヲ以テ(有差)ニ改ム)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄區ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄區ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄區ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ  
(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルトハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並鑑札料ヲ上納スヘシ  
(十四年第六號布告ヲ以テ(賣藥營業者)ノ下(及ヒ請賣者)ノ五字ヲ削リ(右鑑札料)ノ次(賣藥營業者)ノ二項ヲ削ル)

賣藥營業稅

藥劑一方ニ付一ケ年

金貳圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金二十錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ

(十五年第五十二號布告ヲ以テ相違ヲ追加ス)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り鑑札料ハ其都度並ニ管轄區ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ  
(十二年七號布告ヲ以テ(有差)ニ改ム)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ



無權ノ妄説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第六號布告ヲ以テ(管業スル者)ノ下州凡字ヲ追加ス)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取組ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○賣藥取扱手續十年三月十二日 内務省達シ第三十二號府廳

本年一月大政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相違候事

一昨明治八年七月以降常者ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許賣藥共常分賣賣爲願出ニ不及規則公布後相違候鑑札同様相心得ヘシ

一前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ徵ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メレムルニ及ハス

但鑑札料ハ總テ上納爲發定期納附ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一營業鑑札調賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居居人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス(十年内務大政兩省達シ第六十五號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

一前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ賣賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交付取計フヘシ(同上達ニ關スルヲ以テ除之)

一賣藥營業者並ニ請賣者免許取組ハ左式ノ通製セシムヘシ

區三尺

寸法同上

許免	賣藥營業	出	許免	賣藥請賣業
中		4寸		

一税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ユルノミニ該地設立大政官主稅局へ送達スヘシ(十三年九月大政省第七號六月迄ヲ七月二十五日限リト控立期限ヲ定ム) 十八年大政省第七號達ヲ以テ本項中改正ス

但シ會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局へ送達スヘシ(同上達ヲ以テ全項ヲ改正ス)

一行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

一行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都府明細簿ニ登記シ置キ半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ(十四年第七號布告) 達ヲ以テ次項ヲ別ル

一賣藥營業稅並ニ諸鑑札料上納勘定帳雛形(十年内務大政兩省達シ第六十五號ヲ以テ全項改正)

第五類 第一章 醫藥



明治何年七月ヨリ同何年六月マテ賣渡營業稅証書紙料仕上勘定帳  
賣渡營業稅証書式

五百九十六

明治八年當省シ第九十八號達形ニ照シスヘシ  
賣渡營業稅証書紙料形(十一年シ第七十號省達)  
ヲ以テ改正ニ付除ク  
賣渡改正顯書式(用紙美濃紙)

賣渡改正顯

府大小區國郡村  
町番地

營業人 族籍氏 名

一方名

物品(分量)

製法

用法服量

功能

右者何年月日御檢査済紙料御下渡營業仕候處今般何々ノ服左之通改正仕度御送支無之候ハ、鑑札御書發被下度此段奉願  
候也

一改正ノ服ヲ詳記スヘシ

年月日

管轄廳長官氏名宛

區長或  
戶長ハ醫務取締 氏 名印

賣渡營業稅証書紙料書式(用紙同上)

一方名

賣渡營業稅

一同

一同

一同

一同

右營業人

府大小區國郡村  
町番地

族籍氏 名

但營業者與ナレハ縱令一方タリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ列ニ倣ヒ之ヲ區別シテ詳記スヘシ  
右ノ賣渡營業方今般請發仕度帳ヲ別紙營業者へ御免許之御指合寫並約定書相添此段奉願候也

年月日

管轄廳長官氏名宛

府大小區國郡村  
町番地

請發顯人 族籍氏 名印

賣渡營業約定書

一方名

一同上

一同上

一同上

一同上

右者何某ノ官許ヲ得タル賣渡ニシテ今般何某請發可致示談相整ヒ候ニ付請發者ニ於テ請發鑑札ヲ願受營業者ノ製圖シテ  
ル賣渡ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣渡ニ關スル御規則及ヒ御送ノ趣旨ヲ遵守シ不正ノ所  
察致ス間敷候帳ヲ約定書相添

年月日

府大小區國郡村  
町番地

賣渡營業人 族籍氏 名印

同

賣渡顯費人 族籍氏 名印

第五類 第一章 國稅

五百九十七











一 賣渡廢業廢札是送當省へ送納致來候處自今其發ニ及ハス管應ニ於テ消却スヘシ  
(十四年ノ第四十三號省規ヲ以テ次ノ一項ヲ削ル)

契合之印

米 番號	何府何大區何小區何國何郡 何縣何村何番地
方名	何之誰
右免許候事	
明治年	內務省
月日	省印 內務印

裏

面

府 縣 廳

朱印  
府 廳  
印

檢査方數	廢業
許被合計	新方數
廢札替替	舊方數
	常期內ニ許可シタルモノ 常期ニ至リ廢業スルモノ ヲ掲クヘシ
	常期內ニ許可シタルモノ 常期內ニ廢業スルモノヲ 掲クヘシ

附 廢業廢札

方數	廢札
----	----

附 下廢業廢札

方數	廢札
----	----

第五類 第一章 廢業



右者明治何年 一月ヨリ六月マテ 賣藥營業並請發行前共書面之通候也  
七月ヨリ十二月迄

府縣官氏名印

○賣藥請賣證札並行商證札製作費支辨方 十四年四月二十六日 大政官達第三十二號府縣

賣藥請賣證札並行商證札製作費ノ備ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相違候  
事

○賣藥手續中請賣證札及行商證札並行商證札製作費ノ一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス 年十四

月三十日 内務省第七二十五號府縣へ達

本年四月大政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年三月廿三號賣藥取扱手續中請賣證札料及ヒ行商證札料

ノ廉並行商證札製作費々々ノ一項別除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相違候事

一賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルハ本年府縣會於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ

一請賣證札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前驗形ノ通製造スヘシ

但大藏省ヨリ下付セシ證札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候紙未用ノ分ハ同省へ返納スヘシ

一請賣者ニテ其賣藥ヲ開製候儀ハ無之者ニハ候得共成ハ營業者ノ藥方分世ヲ傳ハリ開製候向モ有之候ハ、改正規則第二

十三條ノ開則ニ相當ルヘキモノニ付連ニ開製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候條取計フヘシ

○賣藥行商證札表面配賦方ノ件 二十一年六月十一日 内務省訓令第十三號北海道府縣

明治十年當省第七十三號通則八項行商證札表面自今左ノ格式ニ依リ配賦セシムヘシ

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥營業者 氏 名  
一方名 一方名 一方名  
一方名 一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥營業者 氏 名  
賣子 氏 名  
一方名 一方名 一方名  
一方名 一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥營業人 氏 名  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥請賣營業 氏 名  
一方名 一方名 一方名  
一方名 一方名 一方名  
右行商開屆候事

賣藥行商許可之證  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥營業人 氏 名  
何處府縣郡區町村族籍  
賣藥請賣營業 氏 名  
賣子 氏 名  
一方名 一方名 一方名  
一方名 一方名 一方名  
右行商開屆候事

沿革要領

明治三年十二月廿三日布告ヲ以テ賣藥取扱規則ヲ定メ大學東校ニ於テ管ス○五年五月第百四十二號布告ヲ以テ賣取  
權取扱規則ノ類ヲ加ヘタル賣藥ヲ禁ス○同年七月第二百二號布告ヲ以テ三年十二月廿三日布告賣藥取扱規則ヲ廢ス○  
第五項 第一章 醫藥



六年十二月第四百廿九號布告ヲ以テ賣藥取締ヲ文部省ノ管理トシ賣藥出願ノ者ハ該省ニ申出検査ヲ受ケンシ〇十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス〇十一年二月第四號布告ヲ以テ賣藥稅金納方ヲ定ム

○藥品營業并藥品取扱規則 二十二年三月十五日 法律第十號

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第十號

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルト

キハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀普換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條 普換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルト

キハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ

定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名

ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アル

トキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

第十五條 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ

事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨

意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第五節 第一章 醫藥



第十七條 毒藥劇藥ノ処方箋ハ藥劑師檢印シテ処方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ  
第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ処方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ  
通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ処方箋ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、  
年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零  
賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許證札ヲ受クヘシ

第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコト  
ヲ得ス

第四章 藥品取扱

第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノ

ニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性  
狀品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモ  
ノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住  
所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコ  
トヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニ  
ハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒  
藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ処方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二  
條ノ手續ヲ爲スヲ要セス



第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅句語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條

藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ於テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第五節 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 内務大臣ハ此規則實行ノ實ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ら診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五節 第一章 醫藥

改正見合



第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス  
第四十八條 明治二十二年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキ届出方 内務省令第一號  
明治二十二年三月三十一日

○藥品巡視規則 内務省令第四號  
明治二十二年三月二十七日

○藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

第一條 衛生官監督官及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業證藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

三 藥劑師

第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業證藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ開列所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第三條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セシ其時間午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携帶シテ検査スルコトアルヘシ  
第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並証票雛形 二十二年九月二十六日 内務省訓令第三十八號 府縣  
明治二十二年三月三十一日 内務省令第五號  
及對稱商標者確札製作費ハ其認察費定限内ヲ以テ支辨スル儀ト心得ヘシ  
但監視員ノ携帶スヘキ器具ハ左ノ輪形ニ準シ其認ニ於テ交附シ尚ホ之ヲ管内ニ告示スヘシ

曲尺ニテ二分

表	裏
藥品監視員ノ證	府縣
44	名
	印

明治二十二年三月三十一日 内務省令第五號  
○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並証票雛形 二十二年九月二十六日 内務省訓令第三十八號 府縣

改正通則

○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並証票雛形 二十二年九月二十六日 内務省訓令第三十八號 府縣

○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方並証票雛形 二十二年九月二十六日 内務省訓令第三十八號 府縣

青酸粉 青酸加加里  
亞硫酸 白礬石 亞硫酸加倫酸液 法列親  
アルセニツキ

第五類 第一章 醫藥



沃度化砒素沃度化砒素液<sup>度納酸</sup>沃度化砒素<sup>威冠維</sup>  
黃色酸化汞<sup>實降</sup>赤色酸化汞<sup>赤降</sup>昇汞<sup>猛汞</sup>生々乳<sup>白降汞</sup>硝酸汞赤色沃度化汞

アコニチキ、亞刺其兒比涅、亞篤必涅、アルチーネ、コニーネ、エメチーネ、比蘇斯知爾密涅<sup>エセリ</sup>菲沃斯亞密涅<sup>ネ</sup>、兒比涅、ナルコチチーネ、ニコチーネ、必魯加必涅、斯篤里幾尼涅、勃拉篤里涅等

實答答利涅  
クラーレツツ、  
加刺拔兒豆、蘇斯篤拉加刺  
類發善扁桃油

鹽類

磷酸、粗製磷酸、發烟磷酸  
磷酸、粗製磷酸、發烟磷酸  
鹽酸、粗製鹽酸  
硝酸、粗製硝酸  
硝酸(王水)  
石炭酸、粗製石炭酸  
格羅酸及及其鹽類  
苛性加里及及其油液  
苛性曹達及及其油液  
亞安母尼亞水

沃度、沃度丁幾、沃度兒、沃度仿酸、沃度化加備酸、含鹽沃度化鎳、沃度化鎳水  
亞錳酸(臭香)親錳酸、化錳酸  
格魯兒化拔備酸、硝酸拔備酸  
揮發錳備酸、硝酸錳備酸

吐酒石及及其製劑、酸化安知母維酸、硫化安知母維酸<sup>金礦</sup>  
醋酸亞鉛、成酸亞鉛、格魯兒化亞鉛、酸化亞鉛<sup>亞鉛</sup>、硫酸亞鉛(備器)<sup>類草酸亞鉛</sup>  
醋酸鉛(鉛糖)<sup>水醋酸鉛液(鉛糖)</sup>、成酸鉛、酸化鉛  
醋酸銅、銅<sup>銅</sup>、硝酸銅、硫酸銅、安母維酸<sup>銅</sup>、硫酸銅(丹麥)  
甘泉、麵粉、黃色沃度化汞、硫酸汞、汞灰酸、藍光  
硝酸銀、硝酸銀加備石  
亞硝酸亞亞爾

阿臘仿酸及及其製劑(附コロゲン)  
抱水格魯刺爾  
知母爾  
抱水格魯刺爾  
知母爾  
咖啡涅  
古加し涅  
珊篤酸及及其製劑  
銅度比爾林



苦扁桃水、杏仁水、老利兒結兒所水、バクチ水  
 錫答利斯、斑蝥、若毒及ヒ其製劑  
 拳菊及ヒ其製劑  
 印度大麻葉及ヒ其製劑  
 實答答利斯葉及ヒ其製劑  
 別刺散那葉、根及ヒ其製劑  
 貫蒼葉、根及ヒ其製劑  
 菲沃斯矢亞酸所葉、子及ヒ其製劑  
 聖陀羅勒葉、子及ヒ其製劑  
 耶僕蘭百葉  
 魯別利亞葉及ヒ其製劑  
 サビナ葉及ヒ其製劑  
 古魯亞葉及ヒ其製劑  
 コニユ、草及ヒ其製劑  
 刺著葉、葉、根及ヒ其製劑  
 阿答百兒加液  
 サビナ油  
 羅發芥子油  
 阿片及ヒ其製劑  
 アコニツト根、聖國藥、馬頭及ヒ其製劑  
 藍藤根

吐根及ヒ其製劑(附托物兒氏散)

藥刺巴根

藥刺巴根及ヒ其製劑

古爾矢而波子、根及ヒ其製劑

サバジルラネ

番木鱈子及ヒ其製劑

巴豆

加刺按兒豆

藤黃

日本產大茴香

○燐製ノ風取藥ヲ禁ス 十年三月二十二日 內務省達シ第三十六號府縣

從來燐製ノ風取藥ヲ以テ毒藥トナシ候儀聞屆禮札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間服用之虞ナキヲ免レヌ殊ニ本年太政官第二十號毒藥取締規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ禮札返納可取計此旨相達候事

但毒藥禁之モノモ同様毒藥規則ニ照シ禁止之處分可相達候事

○アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料取締方 十一年四月十八日 內務省達シ第三十五號府縣

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ毒色スルモノ不尠ニ候處右ハ自然人身之健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ極大ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事  
 追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當衛生局へ照會試驗ヲ受可申事

○繪具染料賣買取締方 十三年三月十七日 內務省達シ第十七號府縣

第五類 第一章 鹽鹼



本年一月大政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類並第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可致各ニ候係心得違ノ者無之様可取計此旨相達候事

○藥品其他検査手数料ヲ定ム 十七年十月十四日 内務省告示甲第二十七號  
當省衛生局東京大試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料左ノ通相定來ル十一月一日ヨリ徴收候條此旨告示候事

検査手数料

- 一 藥品 一 容器一類ニ付金壹圓乃至五圓  
但大容器ノ藥品ヲ検査シタル上小容器ニ分チテ印紙ヲ貼付スルモノハ其小容器ヲ以テ一容器トス尤單ニ告示額ヲ與フルモノハ其個數ノ多少ニ拘ハラズ金壹圓ヲ徴ス  
左ノ各項手数料ハ壹個毎ニ徴收スルモノトス
- 一 飲水及氷雪 飲料適否鑑定 金拾圓乃至五拾圓
- 一 乳汁 定置分析 金五拾圓乃至五圓
- 一 酒類 定置分析 金五拾圓乃至五圓
- 一 飲食物 全全 金五拾圓乃至五圓
- 一 大氣及有毒性瓦斯類 定性定量ニ拘ハラズ 金壹圓乃至五圓
- 一 食器中有毒性金屬 定性分析 金五拾圓乃至五圓
- 一 衣服料 定量分析 金五拾圓乃至五圓
- 一 破棄 定性分析 金五拾圓乃至五圓
- 一 肥料 定性分析 金五拾圓乃至五圓

一 玩具其他着色物中有毒性色料

一 化學製品 定性分析

一 礦物及金屬 定量分析

一 糖漿及糖類關係物品 全全

一 前各項外ノ諸品ハ其検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ 検査ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ依リ

一 右諸品時日ヲ限リ検査ヲ乞フモノハ試驗所ノ都合ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ然ルハ普通検査手数料ノ五倍以内ヲ増徴ス可シ 全全 金五拾圓乃至五拾圓

○醫藥適用ノ藥品印紙貼用 十八年二月九日 内務省告示第五號

明治十年四月當省甲第七號布達可轉場藥品検査印紙ハ本月十五日限リ相續シ爾後衛生局試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニ限リ左ノ印紙貼用候條此旨告示候事

右現品見本ハ地方廳ニ下渡ス

○衛生試驗所藥品検査印紙 二十年六月二十日 内務省告示第二號

衛生試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニハ左ノ検査印紙ヲ貼用ス  
但當分ノ内元衛生局試驗所検査印紙ヲ取交貼用ス  
小形印紙驗形









私領何年何月何地ニ於テ藥劑師試驗相定度此段奉願候也

年月日

右  
氏 名 印  
市長(三府八區長)若クハ町村長(市町  
村制ヲ實施セサル地方ハ區長)

氏 名 印

内務大臣宛

○藥品營業並藥品取扱規則ニ據リ届出テタル藥劑師廢業又ハ死亡者報告方 廿二年八月三日  
十四號  
府縣  
藥品營業並藥品取扱規則第八條ニ據リ届出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月日族籍氏名並免狀番號ヲ記載シ一箇月分  
取纏メ翌月十日限リ當省ヘ報告スヘシ

●沿革要領

明治七年十二月廿五日藥品賣買取締方ヲ三府ニ達ス○八年十月内務省甲第十九號布達ヲ以テ藥品ノ眞實検査印紙ヲ  
定メ藥品ノ鑑定ヲ要スルモノハ四縣場ニ届出シム○十年二月第二十號布告ヲ以テ遊樂劑藥取扱規則ヲ定ム○同年四  
月内務省甲第七號布達ヲ以テ八年甲第十九號布達同縣場検査印紙ヲ改正シ遊樂劑藥貼用方ヲ定ム○十三年一月藥  
品取扱規則ヲ定メ十年第二十號布告並遊樂劑藥取扱規則ヲ廢ス○十六年五月内務省甲第八號布告ヲ以テ東京大阪橫濱

三町縣場ヲ衛生局試驗所ト改ム○十七年十月内務省甲第七號布告ヲ以テ衛生局試驗所ニ於テ舉行スル藥品其他ノ  
検査手帳料ヲ定ム○二十二年三月十六日法律第十號ヲ以テ藥品營業並藥品取扱規則ヲ定メ十三年第一號布告ヲ廢ス

○石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス 十三年五月十五日  
布告第二十三號

石炭酸其他劇藥ハ本年一第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ  
際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其  
管轄廳ニ可願出此旨布告候事

●沿革要領

明治十年九月第六十九號達ヲ以テ流行病アル節ニ限リ水或ハ他藥ト混和シタル石炭酸硫酸ハ地方廳限リ販賣ヲ許可  
セシム○十五年五月第三號布告ヲ以テ石炭酸其他劇藥ハ傳染病流行ノ際内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製シタル分  
ニ限リ藥舖ニ於テ販賣ヲ許ス○同月第三十號達ヲ以テ十年第六十九號達ヲ廢ス

○藥用阿片賣買並製造規則 十一年八月九日  
布告第二十一號

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨布  
告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事(同年内務省甲第七號ヲ以テ十二  
年五月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布達ス)

藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス  
第二條 藥用阿片ハ内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ  
第五類 第一章 醫藥



買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ(廿年十月六日勅令第五十二號ヲ以テ本條ヲ改正シ廿一年一月一日施行ス)

第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス(同上)

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得(同上)

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目並ニ其住所姓名及年月日(前條ハ其名稱及ヒ處)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名並ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細簿ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルヲ許サス

但內務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其處ニ預リ置クヘシ(同上勅令ヲ以テ但書ヲ改正ス)



第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一級ノ相場等ニ因テ高低アル

ヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒネ」ノ多少ニ因ル

第十五條 內務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下ケル阿片ノ「モルヒネ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九

分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス(同上勅令ヲ以テ)

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ

沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方十一月十四日 內務省達シ第六十八號府縣

本月二日當省甲部二十七號ヲ以テ阿片賣買並製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此旨相達候

一各管内藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月限リ最寄町藥場ニ提出ス可

シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上ケ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ケ可ク品位不相

當ノ品ハ其理由ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買並製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齢ヲ詳記シ

來ル十二月限リ申出ヘシ

一阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許證札願出サシムヘシ

○內國產濃潤阿片并粉末阿片價格ヲ定ム二十年十月十九日 內務省告示第五號

阿片製造人ヨリ買上ケヘキ內國產濃潤阿片並地方產ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケル粉末阿片價格來ル明治二十一年

一月一日ヨリ左ノ通相定ム

買上價格

濃潤阿片百分中九以上十分未満者 但「モルヒネ」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價額ヲ増ス

粉末阿片「モルヒネ」含量十分 但「モルヒネ」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價額ヲ増ス

○藥用阿片受拂手續ヲ定ム二十二年三月八日 內務省訓令第六號 北海道廳府縣

地方產ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケル藥用阿片受拂手續左ノ通相定ム

一地方產ヨリ阿片ヲ拂下ケルハ明治十一年八月第二十一號布告第四條ニ據リ特許ヲ得タル藥舖ニ限ルモノトス但外國人藥

舖ニハ開港場市場アル地方產ニ於テ之ヲ拂下ケ可シ

一地方產ハ每半年分阿片拂下ケ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ內務省衛生局ヘ請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨

ナシ

一北海道廳ハ阿片ヲ內務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉管トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル(二

三年三月二十日內務省訓令第五號ヲ以テ本項追加)

一地方產ニ於テ阿片ヲ拂下ケルトキハ其都府縣舖ノ住所氏名外國人ナレハ其國名 振數代價月日等詳細簿記シ置キ毎一箇

年會計年度 分輪形ノ報告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ提出シタル明細表並外國人藥舖ヨリ提出シタル書面ヲ添ヘ會計年

度經過後二箇月以内ニ進達ス可シ 阿片受拂報告ハ明治二十一年度ヨリ提出ス可キモノトス

一地方產ニ於テハ内外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下ケルトキハ代價引換ニ現品ヲ拂渡ス可シ(二十三年三月十九日內務省訓令

一特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ內務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スルモノトス(第十二號ヲ以テ本項中ヲ削除ス)

報告用紙並報告書紙

明治何年度阿片受拂報告

受 入

名

第五類 第一章 醫藥

六百二十七







第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 獸醫免狀ヲ受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫假免許手續 二十三年九月二日 農商務省訓令第四十四號 北海道廳府廳

明治二十三年八月法律第七十六號 獸醫假免許規則第十四條ノ獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ 但明治十九年十二月 當省訓令第二十一號 假開業獸醫假免許手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

- 第一條 獸醫假免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ
  - 一 營業區域ノ位置及地勢ノ險夷
  - 一 區域内牛馬ノ頭數
  - 一 營業年限

第五類 第二章 獸醫附屬職工



削除見合

第三條

戰時假免許區域内ニ於テ戰時假免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル戰醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖假免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

改正見合

第三條

戰時假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○戰醫、蹄鐵工各免許規則ニ依リ學則認可請求方

二十三年十一月一日  
農商務省令第十八號

本年八月法律第七十六號戰時假免許規則第二條第三項及同年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則認可ヲ請ハント欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名、學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ、教員ノ族籍氏名、年齢及履歷ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ、其ノ校長又ハ校長名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ提出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校長ハ其ノ學校ノ卒業試驗終了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業生ノ族籍氏名、年齢及最終學期ノ試驗成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 教員ノ員數及資格

一 戰醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學戰醫學本科元東京農林學校戰醫學本科若クハ元駒場農學校戰醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一 蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學蹄鐵學本科元東京農林學校蹄鐵學本科若クハ元駒場農學校蹄鐵學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二 學科目

一 戰醫學校學科

- 動植物學及理化學
- 產科學
- 病理學
- 動物疫論及醫藥法
- 解剖學及其ノ實習
- 病體解剖學及其ノ實習

三 修業年限

一 戰醫學校滿三年以上

一 蹄鐵學校滿一年以上

○戰醫開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ノ件

二十二年十一月二日農商務省訓令第三十九號北海道

戰時開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ハ自今別本提出スニ及ハヌ

- 生理學
- 家畜飼養法、毒物法及衛生論
- 植物學
- 蹄鐵學及其ノ實習
- 內科學
- 治療法實習
- 外科學
- 蹄鐵學校學科

- 鑄鐵、鍛鐵、造蹄鐵及造鐵釘
- 蹄ノ解剖、生理及病理論
- 法實習
- 家畜衛生論

蹄鐵學及其ノ實習

○開業戰醫轉居届出方

二十二年十一月三十日農商務省告示第十五號  
開業戰醫(假開業戰醫ヲ除ク)ニシテ明治二十二年十二月一日以後轉居セシ者ハ其都府道三當省農務局ニ届出ツヘシ

○蹄鐵工免許規則

二十三年四月三日  
法律第三十一號

蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三十一號

第五類 第二章 戰時附屬職工



蹄鐵工免許規則

- 第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ
- 第二條 蹄鐵工免狀ヲ受ケルコトヲ得ル者左ノ如シ
  - 一 蹄鐵工免許試験ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
  - 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク
- 又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

- 第六條 蹄鐵工免狀ヲ受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ
- 第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十一條 蹄鐵工免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

- 第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス
- 第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼テント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受ケル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第五類 第二章 獸醫附蹄鐵工



○蹄鐵工假免許取扱手續 二十三年七月十九日  
農商務省訓令第三十八號 北海道廳府縣  
明治三十三年四月法律第三十一號 蹄鐵工假免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免許ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續  
ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免許手續

第一條 蹄鐵工假免許ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工之シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ照會及履歷書ヲ添ヘ  
具狀スヘシ

- 一 區域 廣義地勢及馬匹頭數
- 一 營業年限

第二條 假免許下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

第六類

第一章 戒嚴令 徵發令

○戒嚴令 十五年八月五日  
布告第三十六號

戒嚴令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別冊

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻堅其他ノ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要ス可キ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要靈海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻堅ヲ受ケル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰略上時機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

第六類 第一章 戒嚴令



第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(十九年十一月三十日勅令第七十四號ヲ以テ警備隊司令官若クハ分遣隊長ノ十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得

第九條 臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該

第十條 合圍地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境内ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛

ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏濫職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 強ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第六類 第一章 戒嚴令



第八節 洪水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコトヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スルコト

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニ依リ抑收スルコト

第四 郵便電報ヲ閉緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト

第五 戰狀ニ依リ止ムコトヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢察スルコト

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムルコト

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解除止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ日迄ハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解除ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

●沿革要領

明治十五年八月第三十六號布告ヲ以テ戒嚴令ヲ制定ス○十九年一月勅令第七十四號ヲ以テ前令中ヲ改正ス

○徵發令 十五年八月十二日 布告第四拾三號

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第六類 第一章 徵發令



- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シニ定ムルコト左ノ如シ

- 一 第十二條第一項ハ  
府縣
- 二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ  
郡區
- 三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ  
町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ  
會社

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費

用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ  
第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藪鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍厩園及ヒ倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道汽車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス



- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具草鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及細帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分ナル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校并ニ同等官現住ノ家屋

六 博物館書齋館

七 病院盲啞院癲兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス  
九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越エルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫亦同シ



第二十二條 宿舍範圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三百以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辦トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘車人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル但船橋及ヒ舟船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル汽車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ニ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ニ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋形船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取

リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ



官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置テ可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第二項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス



第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者處分方及右費用ニ關シ不服アル者出訴方 布告第三十一號

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分ス可シ但財產公賣ノ際買受人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ル可シ 右奉 勅旨布告假事

○徵發事務條例 十五年十二月十八日 徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム 右布達假事 (別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ格式ハ附錄第一號ノ例ニ遵ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ實情ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長艦隊司令官長官ハ時變ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲グル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲グル特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣隊長ハ其獨立中ニ限リ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ組織セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官長官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第三項中ニ掲グル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團長ヲ統フル長官トシテ第三項中ニ掲グル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦長ヲ統フル長官トシテ第三項中ニ掲グル操練出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團長若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條 徵發令第三條第三項中ニ掲グル師團長ニハ近衛都督旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス (二十三年九月三日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)

第八條 徵發物件其徵發ラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ隣人二人共町村ノ親族又ハ預リ主又ハ同物出立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中遊船所工作所第四項第五項ノ第六類 第一章 徵發令 六百五十一



物件及第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船務會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰時クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發令ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發令ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徵發令ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得(二十三年九月三日勅令第九十六號追加)

第十二條 徵發令ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ連ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣廳

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發令ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ數額ヲ陸海軍官憲ニ報告スヘシ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ノ際ニラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ

證明シタルトキハ罰則セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領証票ハ附録第二號圖形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領証票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ地ヲ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵發令後之ヲ交付ス可シ但徵發令後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造所工所第四項及ヒ第五項ニ掲グルモノヲ除クノ外當初領收ノ際受領証票ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第十二條第六項ニ掲グルモノノ船隻及ヒ船ヲ借切トシテ徵發用スルトキハ特ニ本人若クハ

操縦者ニ受領証票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵發令第十五條以上三及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領証票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲グルモノ、徵發ノ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尚ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒタラシムル爲メニ相當ノ分額ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分額ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發令ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣却ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附録第三號一ノ圖形ニ依リ徵發物件ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ提出スヘシ(十九年五月十四日閣令十號ヲ以テ本條ヲ改正ス) 鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ圖形ニ依リ毎年十二月三十一日附ヲ以テ鐵道局ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ(同上追加)

第六類 第一章 徵發令



第三十二條 (同上附合ヲ以テ) 本條ヲ刪除ス

第三十三條 (同上)

第三十四條 北海道廳長官府廳知事ハ三箇年毎ニ附録第三號ニ三ノ輪形ニ依リ徵稅物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シテ表下共ニ總年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ (改正)

第三十五條 北海道廳長官府廳知事ハ附録第四號ニ三ノ輪形ニ依リ西洋形船舶機械製造修繕場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三番以上装置鑄工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ (改正)

第三十六條 徵稅令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ關スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス (改正)

第三十七條 徵稅令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ微用スルコトヲ得ス

第三十八條 徵稅令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ番店ノ店舖工ノ仕事場ヲ指シ又旅館等トハ料理店貨座敷等ヲ包含ス

第三十九條 宿舍ノ廣狭ハ徵稅令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 廳署 陸海軍官廳ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其眷屬部ト共ニ 一室
- 三 上長官又ハ同等軍艦一名 一室

四 士官又ハ同等軍艦二名 一室

五 下士官又ハ同等軍艦一名 一室半乃至二室

六 卒又ハ同等軍艦一名 一室乃至一室半

七 徵稅ニ應ジタル人員三名 二室

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿衛主任官ニ附屬シテ適宜ニ宿舍ノ配置ヲ定ム可シ

第三十一條 徵稅令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之ヲ爲メ徵稅令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵稅令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大學子左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一茶漬物 午飯一茶漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣五百目 糞秣五百目 喰糞五百五十目 夕大麥二升秣五百目 喰糞二百目 演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣五百目 糞大麥一升 夕大麥二升秣五百目 喰糞五百目

小麥ヲ大麥ニ喰糞ヲ秣ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰糞一貫目 糞小麥五合 夕小麥一升五合喰糞二貫目 糞麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰糞ヲ秣ニ代用スルトキ 朝糞麥又ハ裸麥一升喰糞一貫目 糞糞麥又ハ裸麥一升夕糞麥又ハ裸麥二升喰糞一貫目

糞糞ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵稅ヲ課セラルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢新設毎至二一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 糞糞ノ徵稅ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵稅令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第六編 第一章 徵稅令 六百五十五



第三十五條 宿舎ノ被覆ヲ課セラレタルモノノ公有家屋社寺亦同シ  
アルトキハ戸長ニ於テ附ノ受領ヲ立ツル敷若クハ物品及ヒ手俾人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第  
十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗取人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供ス  
可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乗取人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給  
シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定貨ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金  
額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵收物件ノ移出場所ハ各徵收區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵收區外ニ設クルコトヲ得(同上)  
移出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス(改正)

第四十條 徵收區ハ徵收令第三十條ニ從ヒ徵收物件ヲ移出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ  
其區ノ負擔トスヘキモノトス但移出場所ヲ徵收區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送貨ハ當該官憲ヨリ賠償スヘ  
シ(同上)

第四十一條 郡區長ハ徵收人馬ノ供給ヲ便宜ニセシムカ爲メ徵收區郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ニ組合町村ヲ定  
ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケン陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船  
舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸  
海軍官憲ヨリ交付ノ受領票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵收令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲グルモノアルトキハ  
其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又賠償二屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ賠償ノ

二字ヲ記號スルニ

第四十四條 徵收令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ  
請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ速算若クハ不合法ニ依リ推測性從ノ爲メニ  
消費シタル時日ハ算入セズ

第四十五條 徵收令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵收ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使  
用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應ジテ賠償ス  
若シ移出場所ニ集合シタル官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應ジ  
テ賠償ス可キモノハ其半割ヲ給ス

第四十六條 徵收物件ノ毀損シタルトキハ徵收令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ  
受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ届出可キモノ  
トス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損票シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキ  
ハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ賠償委員ニ付ス可シ  
戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額了ルモノハ之ヲ添フ  
ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵收令第三十三條ニ掲グル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但シ震災厄難ニ罹リタルノ確證アル  
モノハ其震災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵收令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號附形ニ依リ調  
製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ提出スヘシ

第五十條 徵收令第三十五條中平常ノ費價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論預習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲ニ  
第六類 第一章 徵收令



臨時ニ賠償セサル以前ノ賠償ヲ行フ

徵發令中平常ノ賠償トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及第三十八條ニ掲クル平常ノ賠償額實價ハ郡區長官署ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賠償額及代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍官憲ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩者同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食料ノ定置ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現置ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航海費トハ石油炭油脂其他日用消耗品ノ統治中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノノ熟達シタルモノナキトキハ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依リテ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ選用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ擧舉ス可キモノトス

其擧舉セラレタルモノハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其擧舉セラレタルモノハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事願令

郡區長若クハ戶長ニ通過ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル

評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查觀シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス成ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價額ノ被左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ位置ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタ 金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆其植物ノ前何年平均均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟又ハ實測シタル歟 金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆何年平均均ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應ジ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ全部收穫ノ前肥料ヲ扣除シタル歟又承存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ實額ニ

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作リ陸海軍官憲ノ指示スル地所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄 (第一號ヨリ第七號ニ至ル表式ハ之ヲ要ス)

○徵發令第十二條第二項ノ乘馬駄馬駕馬車輛并屬具ノ員數差出方 十九年十二月二十八日 陸軍省訓令甲第二號府縣

徵發令第十二條第二項ノ乘馬駄馬駕馬車輛並ニ屬具ノ員數入用候條左ノ項目ニ依リ取調左ノ書式ノ表面ヲ製シ來二十年二月二十八日迄ニ無漏渾所管領區ニ送出スヘシ

但徵發令第十四條並ニ乘馬同發令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調査ヲ要セズ

第一 馬匹 乘馬 駕馬 駄馬 駕馬 來二十年々齡五歲以上十六歲未満ノモノニシテ第二項ヨリ第四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者

第六類 第一章 徵發令











ル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ從前ノ士ニ非ス民ハ從前ノ民ニアテス均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡シ國ニ報セサルヘカラス西人ノヲ稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害アレハ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防クハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ苟モ國アレハ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年來研窮實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラズ故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

明治五年壬申十一月二十八日

太 政 官

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスヘカラス者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ昔ヲ俟タヌ其法タル古今其利ヲ異ニシ各國其趣キヲ同フセスト雖モ要スルニ一ニ民兵ニ

因ラサル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ兵服ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レハ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ

(以下改正ニ付除ク)

○徵兵令 二十二年一月二十一日 法律第一號

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

法律第一號

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第六類 第二章 徵兵令



第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ二箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ二箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材體能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス  
警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在警備

限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

改正  
見合

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校小學校及科校等(二十二年十一月十二日法律)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス(二十二年十一月十二日法律)  
第二十九號ヲ以テ改正

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム(全)

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ第六類 第二章 徵兵令



法ニ依ラヌシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス(同上)

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サズ

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第十七條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故ニ箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セズ

改正見合

第二十一條 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラヌシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(同上)

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役、及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第六類 第二章 徵兵令



第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間<sup>十二</sup>起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ<sup>戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ</sup>本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日<sup>第十一條第三項ニ依リ服役スル者テ規定スル月(同上)</sup>ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス(追加)

リ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セズ

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三回以上三十回以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分之ヲ施行セズ

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備

第六類 第二章 徵兵令



役ニ服セシメ通シテ七箇年トス。

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(二十一年十二月一ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

改正見合

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(全上追加)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(全上改正)

○徵兵事務條例(勅令第十二号二月二十五日) 朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第六類 第二章 徵兵令

六百七十三

改正見合



勅令第十三號

徵兵事務條例

第一章 徵兵區

第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從テ

第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ

第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス

一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス

第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スル

トキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス

近衛步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス

警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管内府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座ト

シ其管内府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

改正  
見合

第八條 旅管徵兵官ハ旅管内府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管内府縣徵募事務ヲ執行ス

改正  
見合

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區内徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官

改正  
見合

又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

改正  
見合

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

改正  
見合

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

改正  
見合

第十二條 郡市島嶼徵兵參事員ハ其郡市島嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

改正  
見合

郡市島嶼徵兵參事員ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選人ハ其郡市島嶼内ニ現住ノ者ニ限ル

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス

第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管内徵兵身體検査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ専ラ身體ノ検査ニ從事ス



改正  
見合

第十五條 府縣郡市及島嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可  
否ヲ職スルノ權ナキモノトス

改正  
見合

第十六條 第十條ニ揭クル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島廳附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス  
第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島廳附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス

改正  
見合

第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

改正  
見合

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

改正  
見合

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

改正  
見合

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ  
市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設ク

改正  
見合

土地廣潤壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ島司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

改正  
見合

島司郡市長ハ検査ノ日時徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

改正  
見合

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審駁ニ任ス

第六類 第二章 徵兵令



第二百九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵集準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

改正  
見合

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

改正  
見合

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモノトス

改正  
見合

抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

改正  
見合

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

改正  
見合

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

改正  
見合

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ  
免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及國民兵

第六類 第二章 徵兵令



編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

改正  
見合録

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス  
本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

改正  
見合録

警備隊諸兵及輜重輪卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラヌ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

改正  
見合録

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

改正  
見合録

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

改正  
見合録

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認タル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前癱疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ  
第六類 第二章 徵兵令  
六百八十一



於テ兵役ヲ免ス

改正  
見合

第五十二條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

改正  
見合

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

改正  
見合

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

改正  
見合

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

改正  
見合

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

改正  
見合

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

改正  
見合

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從テ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

改正  
見合

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

改正  
見合

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルト

キハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

改正  
見合

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

改正  
見合

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスシテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

改正  
見合

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

改正  
見合

第九章 雜則

改正  
見合

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ

改正  
見合

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

改正  
見合

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ

改正  
見合

其願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

改正  
見合

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ

改正  
見合

第六類 第二章 徵兵令



島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス  
島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添へ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知  
ス可シ

改正  
見合

第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者  
ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書  
ヲ添フ可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

改正  
見合

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄  
ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ  
診斷書ヲ添フ可シ

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

改正  
見合

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣  
郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費、地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

改正  
見合

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮  
守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ

通シテ七箇年間服役セシム

改正  
見合

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近  
衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シ  
テ七箇年間服役セシム

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添  
へ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官  
ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他島嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト  
能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最  
寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集  
ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村  
制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第六類 第二章 徵兵令



追加見合

第七十四條 明治二十二年ニ限り第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○徴兵事務條例施行細則 陸軍省令第一號  
徴兵事務條例施行細則左ノ通定ス

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附録第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

改正見合

第二條 徴兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名簿ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

改正見合

第三條 條例第二十五條ノ徴兵署及徴兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島岡郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ署名簿ヲ調査シ其人ノ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

追加見合

第四條 大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵検査所ハ島岡郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到署ノ上之ヲ開設ス可シ

改正見合

第五條 徴兵検査所ハ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署旅管徴兵署ヲ經テ師管徴兵署ノ認可ヲ受ケ一師所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

改正見合

第六條 大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ島岡郡市長ハ其轄區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至ルハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徴兵署又ハ徴兵検査所ニ出頭セシム可シ

改正見合

第七條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ島岡府縣郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徴兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ署名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ提出ス可シ

削除見合

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第八條 身體検査ノ際現役ニ服セシコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徴兵署ハ本人ノ身體ヲ調査シ其現況書ヲ添ヘ旅管徴兵署ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身體確實ト認ムル者ハ旅管徴兵署ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

改正見合

第九條 身體検査終ルノ後大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人ノ旅管徴兵署ニ報告ス可シ

第十條 徴兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ附録第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島岡ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

第十一條 陸軍部兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選ブ可シ

一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者

二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者

四 工兵ハ熟練工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ勞力アル者

五 精進兵及砲重砲卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且勞力アル者

六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者

近衛隊兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選ブ可シ

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ヲ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選ブ可シ

一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者

第六類 第二章 徴兵令







改正見合

役職ヲ作リ市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ  
徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨延テ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作リ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

改正見合

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵兵名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ組織シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

削除見合

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ其キ新兵監視名簿及豫備徵兵監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

改正見合

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附録第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

改正見合

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵集區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

改正見合

第二十九條 検査後抽籤前徵集區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

改正見合

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

改正見合

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ

改正見合

他ノ徵集區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

改正見合

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵集區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十二條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵集區ニ寄留登ラセシ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應シ度キ旨一月三十一日迄二願出ルトキハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得

改正見合

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ其キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡長ニ提出ス可シ

改正見合

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先ツテ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島市又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ通知ス可シ

改正見合

第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ  
下士若クハ上等兵 海軍ハ一等卒一名兵卒一名 乃至三名

改正見合

新兵五十一人以上百五十人迄  
中少尉 海軍ニ在テハ大一名下士若クハ上等兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名

改正見合

新兵百五十一人以上三百人迄  
中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名

改正見合

新兵三百一人以上  
大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

改正見合

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵集合地ハ左ノ如シ  
第一師管ハ東及横須賀  
第二師管ハ仙臺白河  
第三師管ハ四日市沼津  
第四師管ハ神戸

改正見合

第六類 第二章 徵兵令



第五師管八廣島吳丸砲

第六師管八長崎佐世保大分

第三十六條 近衛海軍新兵入營ノ期ニ先クテ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ進牒ス可シ

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願請ノ者其他事故不登ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛海軍新兵受領委員ニ共由テ通知ス可シ

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令部ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年同ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

第四十條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令部又ハ警備隊司令部ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令部ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督府クハ鎮守府司令部長官ニ進牒ス可シ

第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ豫備徵員ニ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ進牒ス可シ

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令部ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新兵豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第一條表 (壯丁名簿)

用紙美濃紙半葉 (△印及番印ハ孰モ朱)

明 治 何 年 壯 丁 名 簿		在 所		身 分		職 業		身 體		備 考	
格	體	府 (縣) 郡 (市) 町 (村)	兵 種	壯 丁 番 號	何 兵 何 番	身 分	職 業	年 月 日	身 體	備 考	備 考
要 摘	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力	新 視 力

一 職業ハ現ニ從事スル所ノ職業ヲ肥シ録業ノ者ハ之ヲ併記ス假令ハ「農林木工」商工等ノ如シ但醫師僧侶ハ職業ノ部ニ官吏教員ハ備考區畫中ニ肥シ職業ナキモノハ無職業ト記スヘシ

二 特留地ニ於テ徵集ニ應ズル者ハ住所ノ區畫ニ本籍地ト寄留地ト併記ス可シ

三 備考區畫中刑ハ禁錮以上ノ者ヲ肥ス可シ

四 兵種番號解決體格ノ區畫ニハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ於テ其事項ヲ記入スルモノトス

第六類 第二章 徵兵令

六百九十三



改正  
見合

第二様式 (徵集延期) 徵集(証書)

用紙厚紙

六百九十四

凡曲尺三寸

右徵兵令前何條ニ依リ徵集ヲ延期(徵集)ス

年月日

△府(縣)郡(市)(町)(村)  
△氏 名

△何大隊區徵兵署

印

凡曲尺五寸

本証書ハ之ヲ附屬シタル日ヨリ翌年ノ徵兵検査迄其効ヲ有スルモノトス

本証書用紙ハ葛籠郡市役所ニ於テ調製スヘシ

改正  
見合

第三様式 (筆札)

用紙厚紙

近衛(海軍)

甲(七) 何兵 第何番

改正  
見合

第四様式 (新兵証書)

徴札用紙ハ葛籠郡市役所ニ於テ調製スヘシ

用紙厚紙

凡曲尺四寸

第何旅管何大隊區

△府(縣)郡(市)(町)(村)住

△何兵第何番

△氏

名

右現役兵ニ徵集シ何兵第何番(大隊)ニ編入ス

年月日

第何旅管徵兵署

印

凡曲尺六寸

第六類 第二章 徵兵令

六百九十五







凡曲尺六寸

右徵兵令第何條ニ依リ國民兵ニ編入ス

年 月 日

第何旅管徵兵署

印

△府(縣)郡(市)町(村)住  
△民 名

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島町又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ

改正地録

第七條式 (免役證書)

用紙厚紙

凡曲尺六寸

右徵兵令第何條ニ依リ免役ヲ受メ

年 月 日

第何旅管徵兵署

印

△府(縣)郡(市)町(村)住  
△民 名

第何旅管何大隊區

此證書ヲ失ヒ若クハ損傷シタルトキハ新ニ下渡ヲ島町又ハ郡市長ニ請求ス可シ

本證書用紙ハ旅團司令部ニ於テ調製ス可シ  
第六類 第二章 徵兵令















○徵兵事務條例中明文ナキモノ、鎮臺へ協議取計方 十八年十二月十一日 陸軍省達甲第四拾八號府縣(沖繩)札帳帳室  
ヲ除ク)

明治十七年第十八號有違徵兵事務條例中明文ナク徵兵事務執行上支障モノハ是迄當省へ伺出來候處自今所管鎮臺へ協  
議ノ上取計フヘシ此旨相達候事

但別途費用ヲ要スヘキモノハ豫メ主務省へ伺出ヘシ

○徵兵令第二十二條ノ餘人ヲ以テ代フ可ラサル官吏認可ノ件 二十二年二月二十七日 閣令第六號各官廳

明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ掌メル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ  
具狀シ認可ヲ請フ可シ

○附籍者徵兵適齡届出及應徵方 二十二年十一月二十二日 陸軍省訓令甲第七號北海道府縣(沖繩)ヲ除ク)

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキハ戸主ト家族ヲ問ハス戸主ヨリ家族ノミ他へ附籍ノ場合ニ在テハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二  
十五條ノ屆書ヲ差出サシメ本籍ノ徵集區ニ於テ徵集ニ應ゼシム可シ

○徵集延期若クハ猶豫中他徵集區ニ轉籍スル者アルトキ通知方 二十二年十月三十一日 陸軍省訓令甲第六號北海道  
府縣(沖繩)ヲ除ク)

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵集區ニ轉籍ス  
ル者アルトキハ島田郡市長ヨリ其名簿ヲ添へ轉籍地ノ島田郡市長ニ通知セシム可シ

但失蹤逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年同ト爲リタル者ニテ他ノ徵集區ニ轉籍スル者ノ取扱ヒ亦本文ニ同シ

○明治二十二年以前ノ徵兵及豫備後備兵失蹤逃亡者捜査通報方 二十三年三月二十日 陸軍省訓令甲第四號府縣

(東京府)ヲ除ク)

明治二十二年以前ノ徵兵及豫備後備兵失蹤逃亡者別冊ノ通候條條警察官又ハ憲兵ヲシテ隨時捜査セシム其所  
在發見シタルトキハ警察本署(北海道)警察本署(府縣)警察本署又ハ憲兵隊ヨリ徵兵ハ本籍所管ノ地方廳へ豫備兵後備兵ハ師團司令部へ通  
報セシム可シ(別冊ハ別(別冊略ス))

○明治十七年以前ノ徵兵失蹤逃亡者ニシテ其踪跡不明ノ者ハ毎年調査ヲ要セス 二十三年三  
月二十日 陸軍省訓令甲第五號師團司令部

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失蹤逃亡ノ者ハ師團投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續ヲ爲シ其踪跡不明ノ者ハ毎年調  
査スルニ及ハス

○明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失蹤逃亡ノ者メ徵集ニ應ゼサル者取調へ差出サシ  
ム 二十二年十月一日 陸軍省訓令甲第五號北海道府縣(沖繩)ヲ除ク)

明治二十二年以前ノ徵兵相當者ニシテ失蹤逃亡ノ者メ徵集ニ應ゼサル者ヲ取調其住所氏名年齢ヲ記シ本年十一月三十日  
迄ニ當省へ差出可シ但所在發見シタルトキハ其都府出可シ

○六週間陸軍現役兵ノ徵集及服役方 二十三年三月七日 勅令第二十二號

朕徵兵令第十一條第三項ニ依リ陸軍現役ニ服スヘキ者ノ徵集及服役ニ關スル件ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二十二號

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役兵ニ服スヘキ者ハ其教職ニ在ル地ヲ包括ス  
ル師管ノ步兵隊ニ編入ス其身體検査ハ入營ノ際步兵聯隊ニ於テ之ヲ行ヒ検査ニ合格セサ  
ル者ハ國民兵役ニ編入ス



入營期日ハ毎年六月一日トシ其入營旅費ハ官給ス

○六週間陸軍現役ニ服スル者取扱方二十三年三月十日陸軍省訓令甲第二號師團司令部道廳府縣

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名ト共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス可シ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ族籍氏名及身幹尺度ヲ學校所在地廳府縣ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス

第二項 師團司令部ニ於テハ入營ス可キ人員ヲ步兵隊ニ配當シ入營前日迄ニ其隊所在地ニ召集シ身幹検査ヲ行ハシム可シ但身幹定尺ニ滿タサル者ハ召集スルヲ要セス

身幹検査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第三項 身幹検査ニ合格シタル者ト合格セサル者ト身幹定尺ニ滿ラズル者トヲ區分シ師團長ヨリ本籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ

第四項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵證書ヲ附與ス可シ

第五項 前諸項ニ掲クルモノノ外ハ師管徵兵官ニ於テ適立之ヲ定ム可シ

○官立府縣立師範學校卒業生徵兵ニ關スル件二十二年三月六日法律第八號

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第八號

官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治二十二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第二十七條ニ據リ處分スヘシ

改正見合

○徵兵事務條例中徵募區及市長、市書記、市徵兵參事員ニ關スル件二十二年五月八日勅令第六十四號

御名 御璽

勅令第六十四號

徵兵事務條例第三條ノ徵募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ徵募區ト爲ス

徵兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

改正見合

東京市京都市大阪市ニ於テハ市徵兵參事員ヲ置カス區ニ區徵兵參事員ヲ置キ市徵兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人員選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徵兵參事員ニ同シ

改正見合

○徵兵參事員手當金並ニ旅費支給規則二十二年四月二十四日內務省令第六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

一 手當金ハ府縣市區間ハ支出額日數ニ應ジ一日金壹圓ヲ支給ス

一 旅費ハ左列ノ金額ヲ給ス其支給辦法ハ明治十九年六月閣令第十四號內國旅費規則ニ據ル

第六類 第二章 徵兵令







- 二十四 鼻腔前頭竇上竇洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内慢性潰瘍、唇類潰瘍、口吻狹窄
- 二十六 唇又ハ歯牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂缺損穿孔
- 二十八 舌若クハ嚙嚙ノ腫瘍肥大、缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍肥大ニシテ其著大ナルモノ及嚙嚙
- 二十九 嚙嚙
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及癆瘵ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ
- 三十四 肺胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟心臓ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ異常甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ
- 三十八 軟兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛痔瘻又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血膿液アルモノ
- 四十 尿管、尿石及尿道畸形
- 四十一 腎丸副腎丸ノ慢性炎症肥大及腎丸腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ麻痺、別瘦、短縮、曲、攣、關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 股白若クハ髌骨脫臼又ハ關節炎

廢止通則  
見合

○徵兵検査手續 二十二年三月二十五日  
陸軍省陸運第三十七號

但明治二十一年六月陸運第百三十一號陸軍徵兵検査手續ヲ廢ス

別冊

徵兵検査手續

第一條 徵兵検査手續ハ徵兵検査規則ニ據リ之ヲ定ムルモノナリ

第二條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ一日壯丁概テ百五十名ヲ検査シ旅管徵兵委員タル醫官其検査ヲ要スルト  
キハ一日概テ五十名ヲ検査スヘシ

検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備附ノモノヲ使用ス

第六類 第二章 徵兵令

四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺

四十六 陸軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒着及小指末節ヲ除クノ他指節ノ強剛

海軍兵ニ在テハ刺指又ハ指ノ癒着及指節ノ強剛

四十七 陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一節以上又ハ環指小指共ニ一節以上ノ缺損

海軍兵ニ在テハ環指一節以上ノ缺損

四十八 足ノ畸形

四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシテ一節以上ノ缺損

海軍兵ニ在テハ大趾一節以上ノ缺損

五十 副趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲

第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ留餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘカラサルモノト認ムルトキハ不合格トス



第三條 大隊區(警備隊區)徵兵署事務員タル地方徵兵醫員ハ四名トス

第四條 身體検査ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ測尺及視力關節運動各部構造ノ検査ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルモノトス

一 測尺主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テ、直立セシメ全身長ヲ測リ其尺度ヲ壯丁名簿ニ記入捺印シ次ニ尺帶ヲ取リ兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ屈曲シ尋常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ續テ最長ノ呼吸ヲナサシメ其縮短ノ差ヲ測ルヘシ但シ身幹定尺ニ滿ツルモノ胸圍身幹ノ半ヨリ大ナルモノ縮短ノ差一寸五分以上ノモノハ壯丁名簿ニ捺印シ是ヨリ以下ノモノ及測尺困難ナルモノハ醫官ニ申告スヘシ

二 視力検査主任ノ醫官ハ「スネルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケ二十尺ノ距離ニ壯丁ヲ立シメ初メ各側眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢スヘシ其検査ニ由リ視力表ノ二十號ヲ明視スルモノ及辨色力完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ヲサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

三 關節運動検査主任ノ醫員ハ壯丁ヲシテ頭首脊椎四肢諸關節ノ屈伸内外轉回轉ノ諸運動ヲナサシメ其運動完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ヲサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

四 各部構造検査主任ノ醫員ハ頭顱(頭面眼耳鼻口咽喉耳頸胸肋腋窩上肢ノ前面及其兩側腹肚陰部下肢ノ前面及其兩側項背腰股膝肘腕四肢ノ後面ヲ檢シ其完全ナルモノハ壯丁名簿ニ捺印シ否ヲサルモノハ醫官ニ申告スヘシ

五 醫官ハ主任醫員ノ申告ニ依リ不合格ト認メタルモノハ爾餘ノ検査ヲ止メ否ヲサルモノハ壯丁名簿ニ自ラ其意見ヲ記入シタル後他ノ検査ヲ行ハシム

六 醫官ハ主任醫員ノ検査終了後壯丁ノ住所氏名年齢等ヲ問ヒ應答ノ間會同精神及聽官ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格ノ一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等級ヲ定ム

第五條 體格ノ等級ヲ區別スルコト左ノ如シ  
一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ  
二 乙種 甲種ニ亞クモノ  
三 丙種 徵兵令第十八條第一項第二項ニ當ルモノ  
四 丁種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ヘサルモノ

第六條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ壯丁名簿ニ其意見ヲ記入スヘシ  
一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身幹ノ半ニ至ラス若クハ縮短ノ差一寸五分ヲ超ヘサルモ其構造良ナルモノ  
二 身體一部ノ形器官能ニ障礙アルモ縮短若クハ陸軍職工ノ服役ニ堪フヘキモノ  
三 精神病癩癩(重聽)夜盲遺尿又ハ自覺症ヲ訴フルモ現ニ其徵候ナク若クハ其徵候確實ナラサルモノ

第七條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ壯丁體格ノ適否ヲ判定シ難キ場合ニ於テハ當該徵募區検査期日內其検査ヲ履行スルコトヲ得而シテ尚決シ難キモノアルトキハ其理由ヲ附箋シテ旅管徵兵委員タル醫官ノ審決ニ附スヘシ

第八條 醫官ハ壯丁中故意ニ身體ヲ毀傷シ若クハ疾病ヲ作爲スルモノト認メタルトキハ確定書ヲ製シテ當該徵兵官ニ致スヘシ

第九條 醫官ハ地方徵兵委員ノ其任ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ其意見ヲ當該徵兵官ニ申告スヘシ

第十條 大隊區(警備隊區)徵兵委員タル醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ徵兵體格表(第一)徵兵病類表(第二)ヲ製シテ旅管徵兵委員タル醫官ニ報告スヘシ

第十一條 旅管徵兵委員タル醫官ハ前條ノ報告ニ據リ旅管徵兵體格表旅管徵兵病類表(第一)徵兵病類表(第二)ヲ製シテ旅管徵兵委員タル醫官ニ報告スヘシ

第十二條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添へ開申スルモノトス

第一式

明治何年第何師管第何旅管(大隊區(警備隊區)徵兵體格表

用紙美濃白紙



















片道三里未満ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地勢上渡航又ハ汽車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラス其實費(汽車汽船ハ下)ヲ支給スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ泊數ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行(徒歩)ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里計トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其見積行程ヨリ延著セシメタルトキハ増日數ニ應シテ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癡疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ駕車賃ヲ支給ス但一里未満ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ駕車ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ駕車賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ至ル郡區書記若クハ戸長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

○徵兵検査ノ節一時雇入ノ者解雇ノトキ旅費支給方二十年二月十七日內務省訓令第九號府廳徵兵検査ノ節一時雇入ノ者解雇ノトキハ該地ヨリ最初採用セシ師ノ本人居住地迄旅費ヲ支給スヘシ

第三章 陸軍志願兵 陸軍歸休兵

改正見合

陸軍一年志願兵條例勅令第十四號 勅令第十四號

御名 御璽

勅令第十四號

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及衛戍地ヲ選ヒ服役スルコトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服裝具費彈藥費武器及屬具修理費トシテ金六拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

武器及屬具ハ服役滿期ノトキ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第四條 一年志願兵ハ日給ヲ給セサルモノトス

徵兵署検査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス

第六類 第三章 陸軍志願兵



第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス  
若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシム

第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム  
一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同機部隊ヨリ被服裝具彈藥

武器及屬具ヲ給與ス  
二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同機部隊ヨリ食餌被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタルトキハ年少ノ者ヨリ順次  
次年ニ回シ入隊セシムルコトアル可シ

第九條 一年志願兵ヲラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ島司又  
ハ郡市長ニ差出シ島司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り

之ヲ願書ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ  
一 戸主本人戸主ノ承認書

此承認書ハ第二條第三條第五條第一項又ハ第六條第一項  
若クハ第二項ノ費用ヲ自辨スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校帝國大學醫學部及  
小學校ヲ除ク府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程

度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治  
學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ前項ニ掲クル承認書ノ外該學校ノ卒業證  
書

第十條 一年志願兵ヲラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ第九條第二項ノ學校ヲ卒業  
セサルモ其年ノ九月二十日迄ニ卒業ス可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以

テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直ニ卒業證書ヲ添ヘ旅團長ニ届出可シ

第十一條 第九條ノ志願者中學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經  
テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下  
付ス

師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ  
身體検査ヲ爲シシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験委員到著ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體検査ニ合格シタル者ノ學術ヲ試験シ試験  
書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ  
告達ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其及第者ニハ併セ



テ認定證書ヲ附與ス

第九條第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵ト同時ニ身體ノ検査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與スヘシ

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十七條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條第三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年同リト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ之ヲ部下某中隊ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其實ニ任スルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナシ但營中雜役ヲ免シ又

被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス

室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪フ可キト認めタル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後上等兵トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下土ノ勤務ヲ爲サシム

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長歩兵ハ旅團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

終末試験ニ落シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若クハ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ歐醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生又ハ志願獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立可シ

歐醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫生タランコトヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及



第二十六條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フ可シ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受ケルモ  
第二十八條 志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生及志願獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ヲシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定メ  
第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セザルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服役セシム

附則

改正見合

第三十二條 明治二十二年ニ限り第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス  
第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○陸軍一年志願兵條例施行細則 二十二年三月四日 陸軍省令第三號

陸軍一年志願兵條例施行細則

- 第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服器具ノ現品ハ左ノ如シ
  - 一 第一種帽 前立共
  - 二 第二種帽
  - 三 紐表袴
  - 四 小倉表袴
  - 五 裏表袴 二著
  - 六 日履
  - 七 外套
  - 八 脚絆
  - 九 第一種手蹠
  - 十 背囊 履具共
  - 十一 飯盒
  - 十二 水筒

第三條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ

- 一 飼料運搬費
- 第六類 第三章 陸軍志願兵



二 裝鏡別手費

三 馬糞費

第三條 居室及食餌自辨ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲ストキハ部隊ヨリ食餌ヲ給シ實費ヲ以テ其代價ヲ辨償セシ

第四條 條例第六條第二項ノ武器及器具ノ修理費ハ金九圓トス

第五條 條例第九條ノ願書及承諾書ハ附録第一第二第三第四様式ニ依リ略メ本籍ノ島町又ハ郡市長ニ提出ス可シ

第六條 條例第九條ノ願書ハ附録第五第六様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第七條 條例第九條ノ卒業證書ハ其寫ヲ提出ス可シ

第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定ムルト同時ニ検査所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格ノ者ニ十歳未満ノ者ヲ除クハ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名冊ニ體格検査裏ヲ添ヘ師團長ニ提出シ師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格検査裏ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該検査裏ニ依リ徵期延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十一條 條例第十一條第二項及第十二條ノ身體検査並學術試験ニ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス前項ニ準ル者ハ旅團長ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵願書ハ附録第七様式ニ依リ作ル可シ

第十三條 官費ヲ以テ服役セシムル者ニハ旅團長附録第八様式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作リ本人ニ附與ス可シ

條例第八條ニ依リ次年同シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其事由ヲ記載ス可シ

第十四條 官費ヲ以テ服役セシムル可キ者ヲ各隊ニ配付スルニカガリ理財部若クハ番算部卒業證書ヲ所持スル者ハ近衛又ハ師團監督部所在地ノ歩兵隊ニ配付ス可シ

第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ検査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ島町又ハ郡市長ニ通達シ島町郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徵兵官又ハ検査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願書ニ依リ他ノ大隊區徵兵官若クハ検査所若クハ旅管徵兵官ニ於テ身體ノ検査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受ケヌシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十六條 大隊區徵兵官若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格不合格ヲ區別シ検査報告書ヲ作リ之ヲ旅團長ニ提出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者ニ十歳未満ニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徵兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ大隊區徵兵官徵期延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十七條 身體ノ検査ニ由リ本人志望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キ者ハ更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十八條 一年志願兵願書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年同シ等ヲ區別シ其人名冊ニ體格検査裏ヲ添ヘ常駐師團長 獨立大隊ニ在テハニ送付シ又其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前線以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出可シ

第二十條 一年志願兵願書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ヲ生シ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入隊ノ延期ヲ旅團長ニ届出可シ

其事故十二月二十日迄ニ止マステ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次年同シト爲シ師團長及本人ニ通知ス可シ

第六類 第三章 陸軍志願兵











年月日

職階位勳氏名印

欄花紋

用紙厚紙

第 號

府(縣)族姓

氏名

年月日生

右居室及食餌(武器及履具ノ修理費)ノ外官費ヲ以テ陸軍一年志願兵トシテ服役スルコトヲ許可ス

年月日

職階氏名印

第九様式

七百三十八

七寸八分 用紙烏ノ子紙

五寸六分

第 號

陸軍歩兵上等兵

氏名

右一年志願兵

將來試験ニ及

第ス

年月日

職階位勳氏名印

○試補及判任官見習ニテ一年志願兵トナル者服役方 二十二年三月二十五日 閣令第十一號

試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得 但服役時日ハ官務練習ノ期間ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

改正總令

○陸軍志願兵身體検査規則 陸軍省 陸軍第三十九號 陸軍志願兵身體検査規則別冊ニ規定ス

別冊

陸軍志願兵身體検査規則

第一條 身體検査ノ要ハ合格ト不合格トヲ區別スルニ在リ而シテ醫官ハ此検査ヲ行フ爲メ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 醫官ハ一日志願兵概テ四十名 助手アルトキハ概テ六十名ヲ検査スヘシ其検査ニ要スル器械ハ陸軍病院備付ノモノヲ使用ス

第三條 志願兵ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ  
滿十七歳以上十八歳未満 四尺九寸以上  
滿十八歳以上 五尺以上

第四條 徵兵検査規則第四條及第五條ハ此規則ニ於テ之ヲ適用ス

第五條 身體検査ノ順序ハ概テ左ノ如シ但シ志願兵志願者ヲ徵兵署若クハ徵兵検査所ニ於テ検査スルトキハ第一項第二項第三項第四項ハ地方徵兵醫員ニ分擔セシムルコトヲ得

一 志願兵ヲシテ踵ヲ測尺柱ニ當テテ直立セシメ其身長ヲ測定シ次ニ尺帶ヲ取リ兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周圍ニ帶常ノ氣息ヲナサシメテ胸圍ヲ測リ腋テ最強ノ呼吸ヲナサシメ其縮張ノ差ヲ測ル

二 「スチルレン」氏視力表ヲ場内ノ壁上ニ掲ケテ二十尺ノ距離ニ志願兵ヲ立シメ初メ各側眼ノ視力ヲ次ニ兩眼合働ノ視力ヲ檢シ而シテ後辨色力ヲ檢ス

三 頭首脊椎四肢諸關節ノ加使内外轉回轉ノ諸運動ヲ檢ス

四 頭圍顔面眼耳鼻咽喉耳頸胸肋腋窩上肢ノ前面及其兩側腹肚陰部下肢ノ前面及其兩側項背腰腕腋肘腕四肢ノ後面ヲ檢ス

五 其征所氏名年齢等ヲ問ヒ應答ノ問旨則精神及體質ノ機能ヲ試ミ次ニ其體格一般ノ強弱健否ヲ判別シ體格ノ等級ヲ定ム

第六類 第三章 陸軍志願兵

七百三十九



第六條 體格ノ地位ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 甲種 身體強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ
- 二 乙種 甲種ニ亞クモノ
- 三 丙種 疾病或ハ畸形ニシテ兵役ニ堪ハサルモノ

第七條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス但シ丙種中二十歳未満ノ者ヲ除ク永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別スヘシ

第八條 左ノ各項ノ一ニ該ルモノハ年齢及體格一般ノ構造ヲ酌量シテ合格トナスコトヲ得但シ體格検査式第一ニ其意見ヲ肥入スヘシ

- 一 胸廓ハ尋常ノ氣息ニ於テ其周圍身長ノ半ニ至ラス若クハ縮張ノ差一吋五分ヲ超ヘサルモ其構造長ナルモノ
- 二 現ニ傳染疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ治療ノ目途アルモノ

第九條 一年志願兵志願者ハ特ニ近視ニシテ視力四分ノ一以上ノモノヲ合格トナスコトヲ得

第十條 醫官ハ検査終了ノ後一週日以内ニ體格検査式第二類検査式第三類検査式ヲ圖製シテ所管軍醫長ニ呈シ軍醫長之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ(二十二年四月三十日陸軍省令)

第十一條 醫官ハ検査事項ニ關シ意見アルトキハ報告ニ添ヘ開申スルモノトス

第十二條 此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍衛生志願者ノ身體検査ニ適用ス但シ幼年學校生徒志願者ニ在リテハ視力三分ノ二以上ニアラサレハ合格トナスコトヲ得

第十三條 衛生志願者ノ身長ハ左ノ如シ但シ別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

第十四條 衛生志願者ノ身長ハ左ノ如シ但シ別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

第十五條 以上十六歳未満 四尺七寸以上

第十六條 以上十七歳未満 四尺八寸以上

第十七條 以上十八歳未満 四尺九寸以上

第十四條 士官候補生並衛生志願者ノ體格検査表ハ検査終了ノ後 各兵科現役士官候補生志願者 候補生並衛生志願者ノ屬スヘキ部隊ニ送附スヘシ(上) 第一式

用紙英漢半葉

「丙八米」

體格検査表										
等位	身長	視力	各部構造	要摘	検査場		検査官		姓名	
					何年何月何日	何日	官	氏名		
					明治	何年	何月	何日	何	某
									何年何ヶ月	

本表用紙ハ之ヲ要スル部隊ニ於テ圖製スヘシ

第六類 第三章 陸軍志願兵



第三表

明治何年何々志願者體格表

國別	總員	合		不	合
		甲種	乙種		
計及平均					
備考					
明治何年何月何日					
官					
民					
名					
印					

用紙英濶十三行罫紙

七百四十二

本表疾病別ハ  
形ノ區別ハ  
陸軍ニ準テ  
日ニ準テス  
ヘシ  
備考ニハ第  
七條但書ニ  
當ルモノハ  
當ルモノハ  
員數其他等  
ノ供スヘキ  
キ件ヲモテ  
入スヘキ能  
キ行ノ檢査  
關官ニ名以  
テ上ノ時ハ  
三式モ亦同  
シ

第三表

明治何年何々志願者病類表

病類	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合計
不類											
合											
項											
次											
何											
國											
計											

用紙英濶十三行罫紙

七百四十三

第六類 第三章 陸軍志願兵

各項中ニ  
入ルニ病  
類アルキ  
ハ末尾ニ  
テ加シキ  
項ニシテ  
トクノ病  
類ニシテ











第九條 歸休兵在郷中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ届出可シ

第十條 歸休兵在郷中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ但歸郷シタルトキハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ届出可シ

第十一條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス  
對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條ノ例ニ依ル可シ

第十二條 歸休兵在郷中死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十三條 歸休兵在郷中重罪輕罪<sup>刑罰金ヲ</sup>ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ七日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ届出可シ

第十四條 歸休兵召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷疾疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷疾疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證明ヲ受ケ監視區長ニ届出可シ

第十五條 本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス  
第十六條 警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ雜重輪卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ

總テ本條例ニ依ル

第十七條 第七條第九條第十條及第十一條第二項ノ届出ヲ爲サハル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十八條 第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セズ若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

第二十條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○陸軍軍人休暇規則ヲ制定シ十八年達乙第百十三號達ヲ廢止ス<sup>二十一年六月二十八日 陸軍省達第百四十號</sup>  
但十八年達乙第百十三號達ハ廢止ス  
(別冊)

陸軍軍人休暇規則

第一條 軍人ノ休暇ヲ分テ二トス

- 一 團員休暇
- 二 附則休暇

第六節 第三章 陸軍歸休兵



第二條 賜與休暇ヲ分テ三トス

- 一 長期休暇
- 二 慰勞休暇
- 三 養實休暇

第三條 關與休暇中ハ歸省旅行等ヲナスハ各自ノ隨意タリト雖トモ准士官以上ハ其行先ヲ必ス長官ニ届出ヘシ  
下士以下ニ在テハ歸省旅行外泊等ハ許可ヲ得免許証及ヒ宿泊證書ヲ携帶スヘシ但慰勞休暇ハ歸省旅行外泊等ヲ許サ、ルモノトス

第四條 長期休暇ハ毎年七月上旬ヨリ九月下旬マテノ間ニ於テ勤務ニ差支ナキ者ニ之ヲ賜フ

第五條 長期休暇ノ日限ハ准士官以上ハ三週日以内下士ハ二週日以内諸卒諸職工等ハ一週日以内トス

第六條 長期休暇ハ隊附下士並ニ在隊ノ卒ニハ賜與セズ

第七條 長期休暇ハ隊附准士官以上ハ隊長其隊長ニ在テハ都督師團長 步兵隊長ハ旅團長 旅團長ハ都督師團長 無隊准士官以上ハ其長官同下士以下ハ所屬長ノ許可ヲ得テ爲スモノトス但制限ノ日數ヲ期内ニ於テ一回若クハ數回ニ分テ申請スルコトヲ得  
憲兵隊教導團ノ隊附ニ在テモ本條隊附ノ例ニ準ス

第八條 慰勞休暇ハ隊附下士以上並ニ在隊ノ卒ニ與フルモノニシテ左ノ項目ニ依ル

- 一 特別ノ勤務ニ服シ或ハ演習等ノ爲メ數日山野ヲ跋渉シ其勞多キ者及ヒ新兵ノ教育ヲ完了シタル等ノ如キ者ニハ隊長及ヒ獨立大隊長ハ將校下士卒ニ五日以内大隊長ハ下士卒ニ三日以内中隊長ハ兵卒ニ一日ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

二 休暇ヲ與ハタル下士卒外出スルトキハ外出免許札ヲ附與スヘシ但一部隊ニ與フル時ハ免許札ヲ與フルコトナク命令ヲ以テ之ヲ與フヘシ

第九條 養實休暇ハ隊附下士並ニ在隊ノ卒ニ與フルモノニシテ左ノ項目ニ依ル

- 一 行狀方正勤務勉勵等ニ著シキ者ニ二百五十日以上勤務ニテ勤務日數ヲ算スルハ養實慰勞休暇ノ日數及ヒ一等証セシ者ニハ隊長及ヒ獨立大隊長ハ下士ニ四週日以内上等兵ニ三週日以内卒ニ二週日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得
- 二 行狀方正勤務勉勵ニシテ且ツ學術或ハ技藝ニ著シキ者人ノ模範トナルヘキ者ニハ中隊長養實トシテ一箇月ニ一日ノ休暇ヲ許スコトヲ得又聯(大)隊本部ノ下士ニ在テハ聯(大)隊長之ヲ許スモノトス
- 三 第一項ノ休暇二日以上三及フ者歸省他行又ハ外泊ヲナストキハ日給ハ勿論食料ヲモ之ヲ與フルモノトス但癩病等ニテ延日ヲ願フトキハ其延日間ノ日給食料ハ之ヲ與ヘス
- 四 歸省他行及ヒ外泊ヲ許スハ一時ニ各中隊ニ在テハ五名聯隊本部及ヒ大隊本部ニ在テハ之ヲ合シテ三名迄ヲ限リトス
- 五 第一項ノ休暇ヲ與ハタル者ニハ左式ノ免許証 步兵ニ就テハ附與シ歸省他行ヲ許シタル者ニ與フル証書ノ裏面ニハ本則第十六條ニ示ス休暇免許証ノ文例ニ依リ物品金員ヲ記入スヘシ

(何ノ字及△ハ朱)

歩兵第何聯隊第何中隊	△官(卒)	△何 某
何日間養實休暇免許証	△聯隊印	
△聯隊長官	△何 某 印	

此免許証ハ何年何月何日何時ヨリ何年何月何日何時マテ養實ノ爲メ休暇ヲ與フルノ証ニシテ此休暇中別シテ陸軍ノ法令ヲ違奉シ常ニ行狀方正ナルヘシ  
此免許証ハ自己ノ名譽ヲ喪スルモノナレハ休暇後ト雖モ猶ホ之ヲ所持スヘシ  
何年何月何日  
△中隊長(聯) 隊副官官 何某印



六 此休職中懲罰ノ履行アリテ其刑務官ニ該ル者ハ直ニ休職ヲ止メ重懲會ニ該ル者ハ免許證ヲ收奪シ併セテ休職ヲ止ムルモノトス若シ已ニ免許證ヲ得未タ休職ヲ爲ササル前ニ於テ重懲會ノ罰ニ該ル者ハ其免許證ヲ收奪シ併セテ休職ヲ止ムルモノトス懲罰ヲ犯シタル者モ亦重懲會ニ該ル者ト同ク處分スヘシ又陸軍刑法其他法律規則ノ罪ヲ犯シタル者ハ其所持スル免許證ハ悉皆沒收スルモノトス

第十條 總テ慰勞費ヲ論セス休職ノ日數ハ功勞行狀及ヒ學術技藝ノ程度ニ依リ等差ヲ爲スモノトス

第十一條 慰勞費ヲ論セス休職中在營スル下士卒ハ勤務演習ヲ休業シ其他ハ平常ニ異ナルコトナシト雖トモ朝食後ヨリ日夕點呼前迄外出ヲ許可ス又本人ノ願ニ依リ食料ヲ給スルコトアルヘシ

第十二條 慰勞費ノ休職ヲ併セ與フルハ勿論同種ノ休職ト雖トモ二回ヲ併セ與フルコトヲ得ス

第十三條 請願休職ハ時期ニ不拘本人ノ願ニ依テ許可ス其請願シ得ヘキ場合准士官以上上下士以下ニ於テ區別アルコト左ノ如シ

一 准士官以上ハ歸省他行又ハ轉地療養其他事故アリテ休職ヲ要スル時

二 下士卒ハ父母病氣或ハ死亡等ニテ歸省ヲ要スル時但隊外下士卒ニ在テハ本文ノ外醫師ノ診斷ニ依リ轉地療養ヲ要スル時

第十四條 請願休職出願及ヒ之ヲ許可スルハ左ノ項目ニ依ル

甲 將官並相當官ハ陸軍大臣ヲ經テ内閣ニ申請シ認可ヲ請フヘシ

乙 陸軍省並其所轄官衙ノ上長官准士官ハ左ノ項目ニ依ル

一 本署出仕ノ准士官以上ハ其局長ハ總務局長ヲ經由シテ總務局長ニ請願スヘシ

二 所轄官衙ノ准士官以上ハ其長官ニ請願シ同官之ヲ許可ス其長官ニ在テハ陸軍大臣ニ請願スヘシ但總務部長ハ隊ノ總務部長ノ認可ヲ經テ請願スルモノトス

三 軍中並醫官會ノ准士官以上ハ學令長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ學令長ヲ經テ所屬局長ニ請願スルモノトス其學令長ニ在テハ所屬局長ニ請願スヘシ

丙 陸軍參謀本部並其所轄各部ノ上長官准士官ハ左ノ項目ニ依ル

一 本部内ノ准士官以上ハ本部長ニ請願スヘシ

二 陸軍大學校陸軍測量部准士官以上ハ其長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ校部長ヲ經テ參謀本部長ニ請願スルモノトス其校部長ニ在テハ參謀本部長ニ請願スヘシ

丁 監軍部並各監所各校團會議ノ上長官准士官ハ左ノ項目ニ依ル

一 監軍部參謀長各兵監タル上長官、戶山學校校長、教練團長ハ監軍ニ其參謀副官ハ參謀長ニ請願スヘシ

二 各監ノ副官及ヒ諸學校校長、砲工兵會議長ハ其所屬監ニ請願スヘシ

三 校團及ヒ砲工兵會議ノ准士官以上ハ各其長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ各其長ヲ經テ監軍若クハ各監ニ請願スルモノトス

戊 近衛各師團ノ隊附及ヒ無隊准士官以上ハ左ノ項目ニ依ル

一 步兵旅團長ハ旅團長ニ請願シ同官之ヲ許可シ然ル後都督師團長ニ申報ス

二 騎砲工砲重兵隊ノ隊長ハ都督師團長ニ請願スヘシ

三 歩兵砲兵大隊長以下ハ聯隊長其他獨立大隊ノ中隊長以下ハ大隊長ニ請願シ二週日以内ハ同官之ヲ許可シ二週日ヲ超ユルトキハ各隊長ヲ經テ步兵ニ在テハ旅團長其他ハ都督師團長ニ請願スルモノトス

四 近衛及ヒ師團司令部准士官以上ハ監督部准士官以上ヲ除クハ都督師團長ニ請願スヘシ

五 旅團司令部及ヒ大隊區司令部准士官以上ハ旅團長ニ請願スヘシ

己 下士卒父母ノ病氣或ハ死亡等ノ爲メ歸省ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作リ、病氣ナレハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ、戶長、區長以下之ニ同シ

ノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ隊或ハ其所轄ヘ差出シ隊附ニ在テハ聯隊長、獨立大隊長其他ニ在テハ其所屬長之ヲ許可ス